

千葉県八千代市

# 上谷遺跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

— 第1分冊 —



2001

大成建設株式会社  
八千代市遺跡調査会

上谷遺跡 第1分冊 正誤表

頁	箇 所	誤	正
P111	9行目、31	A036-2	A036-3
P113	31	(A036-2)	(A036-3)

# 序 文

八千代市は千葉県北部のほぼ中央に位置する印旛沼の南西にあります。この八千代市域には印旛沼と新川・桑納川などの豊かな水を背景として、旧石器時代以来たくさんの人々が生活を営んできました。江戸時代になると脇街道として佐倉道（現、成田街道）が整えられ、宿場町として大和田宿が周辺の村々の支えのもと賑わいをみせたとのことです。また、戦後は首都30km圏に位置する近郊住宅都市として昭和30年代より急激な発展を遂げ、人口17万人を超える都市へと発展しました。近年では大学も開校し、文教都市としての側面も併せ持つようになりました。このように戦後、急速に発展してきた八千代市ですが、市中央を南北に流れる新川沿いには豊かな自然も残されてきました。これから八千代市は水と緑豊かな環境を守りながら、着実に発展していくことと思われまます。

このような八千代市のなかで、市域の北東部の保品、神野、米本にわたる地区に『(仮称)八千代カルチャータウン』の開発が計画されたのは昭和40年代とのことです。しかし開発予定区域内には多くの遺跡の所在が知られていました。そしてこの区域内に所在する埋蔵文化財の保護について、関係諸機関による慎重な協議を重ねた結果、遺跡の一部を現状保存し、保存のできない地区についてはやむをえず発掘調査を行い記録保存することとなりました。

発掘調査は八千代市遺跡調査会により昭和63年3月から開始され、平成11年3月にすべての発掘調査を終了することができました。この期間に調査された遺跡は9遺跡34地点にわたり、旧石器時代から近世に至る膨大な貴重な資料を検出することができました。そして平成12年4月より順次、整理作業を進めております。

本報告書はこの9遺跡のうち上谷遺跡についてその成果の一部をまとめたものです。上谷遺跡では数多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡等が検出され遺物も数多く出土しておりますので、その成果をいくつかの地区ごとに5冊に分けて刊行することとなりました。本書が学術資料としてはもとより地域の歴史に関心をもたれている多くの方々や、教育資料ならびに文化財の保護のために広く活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査から本報告書の刊行に至るまでの長期間にわたって御協力いただきました大成建設株式会社をはじめとして、ご指導・ご助言をいただいた千葉県教育委員会や八千代市教育委員会、関係諸氏・諸機関の皆様方に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査及び整理作業に従事された調査員・調査補助員・整理補助員の方々にも、深く感謝いたします。

平成13年12月

八千代市遺跡調査会  
会長 樺澤 明

# 例 言

1. 本書は、『千葉県八千代市上谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』である。
2. 上谷遺跡を5つの地区に分割し、各地区ごとに報告していく予定である。報告書は、上谷遺跡で全5分冊となる予定である。
3. 本書は、上谷遺跡全5分冊のうちの第1分冊である。本書で報告する地区は、上谷遺跡のⅠ地区である。
4. （仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査の全体の概要については、『千葉県八千代市栗谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ—第1分冊—』を参照していただきたい。
5. 上谷遺跡は、千葉県八千代市保品字上谷1786他に所在する。
6. 上谷遺跡の発掘調査及び整理作業は、大成建設株式会社の委託により、千葉県教育委員会・八千代市教育委員会の指導のもと、八千代市遺跡調査会が実施した。
7. 八千代市遺跡調査会組織については、『千葉県八千代市栗谷遺跡（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ—第1分冊—』を参照していただきたい。
8. 発掘調査の実施期間、調査面積、担当者等については、第1章序説に記載した。
9. 整理作業及び報告書刊行作業は、蔵茂夫・武藤健一が担当し、平成12年4月1日～平成13年9月30日までの期間実施した。
10. 本書の執筆・編集は武藤健一が担当した。
11. 本書の図版作成及び編集・レイアウト作業は、一部を除き、DTP（Desktop Publishing＝コンピュータによる版下作成）システムによるデジタル化を図り、伊勢田めぐみ（株式会社東京航業研究所）が担当した。
12. 発掘調査における航空写真及び遺構図・全測図・地形図の作成は、要航業株式会社・株式会社東京航業研究所が行った。
13. 整理作業・報告書刊行作業におけるDTPシステムによるデジタル化作業全般において、株式会社東京航業研究所の協力を得た。
14. 遺物の実測図及びトレース図の作成については、一部を除き株式会社東京航業研究所に委託した。
15. 上谷遺跡の内容については本書をもって正式報告とし、年報その他において公表された内容と相違する点については、本書の記述により訂正させていただくものとする。
16. 発掘調査に伴う出土遺物及び図面・写真等の記録類は、八千代市教育委員会が保管している。
17. 出土文字資料の判読・解読については、国立歴史民俗博物館平川南教授にご教示をいただいた。
18. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、千葉県教育委員会、八千代市教育委員会、八千代市郷土博物館、財団法人千葉県文化財センター、財団法人印旛郡市文化財センターをはじめ、多くの方々からご指導、ご協力を得た。



# 凡 例

1. 遺構番号は発掘調査の時点では、遺跡の各地区ごとに通し番号を付した。遺物への注記、図面・写真への記録はこれによる。しかし、本書では遺構別に通しの遺構番号を新たに付け直した。詳細については、第1章序説にて新旧番号の対照表を掲載しているのでそちらを参照していただきたい。

2. 本書の挿図において使用した地図は以下の通りである。いずれの図も一部改変・合成して使用している。

第1図 参謀本部陸軍部測量局発行 第一軍管区地方1/20,000迅速測図(明治15年発行)

第2図 国土地理院発行 1/25,000地形図「小林」「佐倉」「白井」「齊志野」(平成12年発行)

第3図 大成建設株式会社発行 1/4,000 Y.Kプロジェクト空中写真測量図(昭和63年発行)

3. 本書の挿図において方位の表示のないものは、公共座標に基づく座標北を上としている。

4. 本書の遺構実測図における用例は以下の通りである。

(1) 図中及び本文中における方位は、公共座標に基づく座標北を示している。

(2) 縮尺率は原則として以下を基準とするが、これ以外のものについては、実測図中表示したスケールを参照されたい。

住居跡 1/80 掘立柱建物跡 1/80 方形周溝墓 1/80 土坑 1/50 溝 1/150 炉穴 1/50

(3) 住居跡平面図中に使用した一点鎖線は、床面の硬化範囲を示している。

(4) 遺構実測図中で使用した破線は、推定復元線を示している。

(5) 遺構実測図中のスクリーントーンの表示は原則として以下の通りであるが、個々については実測図図中表示した凡例を参照されたい。

火床



カマド



焼土



粘土



柱痕



(6) 遺構実測図中の土器の微細図では、出土状況をわかりやすくさせるために土器に対して特別にスクリーントーンをかけている場合がある。

5. 本書の遺物実測図における用例は以下の通りである。

(1) 縮尺率は原則として以下の通りであるが、個々については実測図図中表示したスケールを参照されたい。

土器実測図 1/4 土器拓影図 1/3 土製品 1/2 石製品・石器・石 1/2 1/3 1/4

鉄製品 1/4 銅製品 1/2 支脚 1/4

(2) 遺物実測図中のスクリーントーンの表示は以下の通りである。

須恵器



釉薬



磨耗痕



赤彩



黒色処理・煤・繊維土器



(3) 墨書及び朱書は以下のスクリーントーンで表現した。墨書・朱書には不明瞭な部分が多いため、明瞭な部分はベタ塗り、不明瞭な部分は20%のトーンをかけて表現した。さらに文字の輪郭がはっきりしている部分は実線で縁取りを行った。なお、推定復元部分は破線で表現した。

墨書



墨書(不明瞭部分)



朱書



朱書(不明瞭部分)



6. 本書の遺物写真における用例は以下の通りである。

(1)写真図版中における遺物番号は、本文中における遺物番号と一致している。

(2)写真図版中の遺物写真の縮尺は、出土文字資料と一部を除き、概ね遺物実測図と同じである。

7. 本書では土器に刻まれた文字「刻書」について、土器の焼成前に刻まれたものを「ヘラ書」、土器の焼成後に刻まれたものを「線刻」として区分している。

8. 鉄製品及び銅製品については、株式会社東京航業研究所が、X線による撮影後、写真から実測を行った。

# 目 次

序 文

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

表目次

写真図版目次

第1章 序 説 .....	1
第1節 調査の経過 .....	1
第2節 遺跡の立地と環境 .....	2
第3節 調査の方法 .....	4
1 グリッドの設定 .....	4
2 調査方法 .....	6
3 遺構の表記方法と遺構番号の対応 .....	6
第4節 調査成果の報告方針 .....	8
第2章 遺構と遺物 .....	11
第1節 I地区の概要 .....	11
第2節 縄文時代 .....	11
第3節 弥生時代 .....	25
第4節 古墳時代 .....	56
第5節 奈良・平安時代 .....	72
第6節 中近世以降 .....	105
第3章 小 結 .....	110

写真図版

報告書抄録

# 挿 図 目 次

第 1 図	上谷遺跡位置図 (明治15年・1/25,000) ..... 2	第 25 図	A005.....29
第 2 図	(仮称) 八千代カルチャータウン位置図 (平成12年・1/25,000) ..... 3	第 26 図	A013.....29
第 3 図	(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業 関連遺跡地形図 ..... 4	第 27 図	A008(1) .....30
第 4 図	上谷遺跡調査区域図 ..... 5	第 28 図	A008(2) .....31
第 5 図	上谷遺跡本調査地区割図 ..... 5	第 29 図	A008(3) .....32
第 6 図	グリッド概念図 ..... 6	第 30 図	A015.....32
第 7 図	上谷遺跡 I 地区遺構配置図 ..... 9・10	第 31 図	A016.....33
第 8 図	A038 .....13	第 32 図	A018 .....34
第 9 図	D004・D005・D010・D013 .....13	第 33 図	A020(1) .....34
第 10 図	D015・D016・D017・D022・D026・D028 .....14	第 34 図	A020(2) .....35
第 11 図	D023・D024・D029・D030・D040・D041 .....15	第 35 図	A022.....35
第 12 図	D013・D023・D024・D030・D041出土遺物 .....16	第 36 図	A028 .....35
第 13 図	F001・F002・F003・F004・F005・F006 .....17	第 37 図	A029 .....36
第 14 図	F002・F005・F006・F007出土遺物 .....18	第 38 図	A032 .....37
第 15 図	F007・F008・F009・F010・F011・F012・ F013・F014・F016 .....19	第 39 図	A042 .....38
第 16 図	F010・F011・F012・F015・F017出土遺物 .....20	第 40 図	A043(1) .....38
第 17 図	F015・F017・F018・F019・F020・F021・ F022・F023 .....21	第 41 図	A043(2) .....39
第 18 図	F018・F019・F020・F025・F026・F027出土 遺物 .....22	第 42 図	A045(1) .....40
第 19 図	F024・F025・F026・F027・F028・F029・ F030・F031 .....23	第 43 図	A045(2) .....41
第 20 図	F027・F028・F029・F031出土遺物 .....24	第 44 図	A046 .....41
第 21 図	A001 .....27	第 45 図	A047(1) .....42
第 22 図	A002 .....28	第 46 図	A047(2) .....43
第 23 図	A003 .....28	第 47 図	A048 .....44
第 24 図	A009 .....28	第 48 図	A051 .....44
		第 49 図	A052 .....45
		第 50 図	A053 .....45
		第 51 図	A054 .....46
		第 52 図	A055 .....46
		第 53 図	A056 .....47
		第 54 図	A057 .....47
		第 55 図	A060(1) .....48
		第 56 図	A060(2) .....49
		第 57 図	A061 .....49
		第 58 図	A062 .....50
		第 59 図	A064 .....51
		第 60 図	A065 .....52

第 61 圖	A066	52	第 99 圖	A036(1)	85
第 62 圖	A067	53	第 100 圖	A036(2)	86
第 63 圖	C001	54	第 101 圖	A037	87
第 64 圖	C002	54	第 102 圖	A039(1)	88
第 65 圖	D009	55	第 103 圖	A039(2)	89
第 66 圖	A004	57	第 104 圖	A040(1)	89
第 67 圖	A006	58	第 105 圖	A040(2)	90
第 68 圖	A007(1)	59	第 106 圖	A040(3)	91
第 69 圖	A007(2)	60	第 107 圖	A041(1)	91
第 70 圖	A010(1)	60	第 108 圖	A041(2)	92
第 71 圖	A010(2)	61	第 109 圖	A044(1)	92
第 72 圖	A011	62	第 110 圖	A044(2)	93
第 73 圖	A012	62	第 111 圖	A049	94
第 74 圖	A014(1)	63	第 112 圖	A050	95
第 75 圖	A014(2)	64	第 113 圖	A058	96
第 76 圖	A017	65	第 114 圖	A059	96
第 77 圖	A019(1)	65	第 115 圖	A063	97
第 78 圖	A019(2)	66	第 116 圖	A070	97
第 79 圖	A031	67	第 117 圖	A071	98
第 80 圖	A033	68	第 118 圖	A072a · b(1)	99
第 81 圖	A068	69	第 119 圖	A072a · b(2)	100
第 82 圖	A069	70	第 120 圖	B001	100
第 83 圖	D006	71	第 121 圖	B002	101
第 84 圖	D011	71	第 122 圖	B003	101
第 85 圖	A021a · b(1)	74	第 123 圖	B004	102
第 86 圖	A021a · b(2)	75	第 124 圖	B005	102
第 87 圖	A023	76	第 125 圖	D002 · D003 · D007 · D008 · D012 · D025	103
第 88 圖	A024(1)	77			
第 89 圖	A024(2)	78	第 126 圖	D027 · D031 · D033 · D034 · D035 · D036 · D037 · D039	104
第 90 圖	A025(1)	78			
第 91 圖	A025(2)	79	第 127 圖	D001 · D014 · D018 · D019 · D020 · D021 · D032 · D038	106
第 92 圖	A026(1)	80			
第 93 圖	A026(2)	81	第 128 圖	E001 · E002(1)	107
第 94 圖	A027(1)	81	第 129 圖	E001 · E002(2)	108
第 95 圖	A027(2)	82	第 130 圖	E001 · E002(3)	109
第 96 圖	A030	83	第 131 圖	出土文字資料(1)	112
第 97 圖	A034	84	第 132 圖	出土文字資料(2)	113
第 98 圖	A035	84	第 133 圖	出土文字資料(3)	114

## 表 目 次

第1表	上谷遺跡調査一覧	1	第9表	古墳時代住居跡一覧	56
第2表	上谷遺跡新口遺構番号対照表	7	第10表	古墳時代土坑一覧	56
第3表	縄文時代住居跡一覧	11	第11表	奈良・平安時代住居跡一覧	72
第4表	縄文時代土坑一覧	11	第12表	奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧	73
第5表	縄文時代炉火一覧	12	第13表	奈良・平安時代土坑一覧	73
第6表	弥生時代住居跡一覧	25	第14表	中近世以降土坑一覧	105
第7表	弥生時代方形周溝墓一覧	26	第15表	上谷遺跡I地区出土文字資料一覧	110
第8表	弥生時代土坑一覧	26			

## 写真図版目次

図版1	(仮称) 八丁代カルチャータウン開発事業 関連遺跡周辺航空写真(昭和63年撮影)	図版13	A067・C001・C002・D009・A004・A006・ A007・A010
図版2	上谷遺跡全景(平成11年3月撮影) 上谷遺跡I地区全景(平成11年3月撮影)	図版14	A011・A012・A014・A017・A019・A031・ A068・A069
図版3	A038・D004・D005・D010・D013・D015・ D016・D017	図版15	D006・D011・A021a・A021b・A023・A024・ A025・A026
図版4	D022・D023・D024・D026・D028・D029・ D030・D040・D041	図版16	A027・A030・A034・A035・A036・A037・ A039・B001・A040
図版5	F001・F002・F003・F004・F005・F006・ F007・F008	図版17	A041・A049・A050・A058・A059・A063・ A070・A071
図版6	F009・F010・F011・F012・F013・F014・ F015・F016	図版18	A072a・A072b・B002・B003・B004・B005・ D002・D003
図版7	F017・F018・F019・F020・F021・F022・ F023・F024・F025	図版19	D007・D008・D012・D025・D027・D031・ D033・D034
図版8	F026・F027・F028・F029・F030・F031・ A001・A002	図版20	D035・D036・D037・D039・D001・D014・ D018・D019
図版9	A003・A005・A008・A009・A013・A015・ A016・A018	図版21	D020・D021・D032・D038
図版10	A020・A022・A028・A029・A032・A042・ A043・A044・A045	図版22	A038・D013・D030・D041・D023・D024・ F002・F005出土土器
図版11	A046・A047・A048・A051・A052・A053・ A054・A055	図版23	F006・F007・F010・F011・F012・F015・ F017・F018・F019出土土器
図版12	A056・A057・A060・A061・A062・A064・ A065・A066	図版24	F020・F025・F026・F027・F028・F029・ F031出土土器
		図版25	A001・A002・A008・A013出土土器

圖版26 A015 · A016 · A018 · A020 · A022 · A028出土土器  
圖版27 A029 · A032 · A042 · A043出土土器  
圖版28 A045 · A046 · A047 · A048 · A052出土土器  
圖版29 A054 · A055 · A056 · A057 · A060 · A061出土土器  
圖版30 A062 · A064 · A065 · A066 · A067 · C002出土土器  
圖版31 D009 · A004 · A006出土土器  
圖版32 A007 · A010出土土器  
圖版33 A011 · A012 · A014 · A017出土土器  
圖版34 A019 · A031出土土器  
圖版35 A033 · A068 · A069出土土器  
圖版36 A021ab · A023 · A024出土土器  
圖版37 A025 · A026出土土器

圖版38 A027 · A030出土土器  
圖版39 A034 · A035 · A036出土土器  
圖版40 A037 · A039(1) 出土土器  
圖版41 A039(2) · A040 · A041 · A044出土土器  
圖版42 A049 · A050 · A059出土土器  
圖版43 A063 · A070 · A071出土土器  
圖版44 A072ab · B005 · D003出土土器  
勾玉 · 土玉 · 土製品 · 紡錘車  
圖版45 支脚 · 石器  
圖版46 砥石 · 輕石 · 石  
圖版47 鉄製品(刀子 · 鎌 · 鋤先 · 鉄鏝 · 紡錘車 · 釘) · 帶金具  
圖版48 出土文字資料(1)  
圖版49 出土文字資料(2)

# 第1章 序 説

例言に記したとおり、本書は『(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書』のシリーズⅡにあたる。従って「調査に至る経緯と経過」「調査組織」及び「地理的・歴史的環境」等については全体の調査をとおして変わることがないので、既刊の『千葉県八千代市栗谷遺跡 (仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ—第1分冊—』を参照していただきたい。ここでは、上谷遺跡の調査経過・調査方法及び立地について簡単に触れておきたい。

## 第1節 調査の経過

(仮称)八千代カルチャータウンは大成建設株式会社により八千代市保品・神野・木本にわたる地区に計画された、大学と住宅地そして研究施設がセットになった研究学園都市である。(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連の埋蔵文化財の調査は、八千代市遺跡調査会が大成建設株式会社の委託を受けて、千葉県教育委員会・八千代市教育委員会の指導のもと、昭和63年3月から実施した。

上谷遺跡の発掘調査は、(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査の一環として、平成4年度より開始された。第1次確認本調査は、県道八千代・宗像線に沿った地区で、宙南遺跡を一部含む8,400㎡の調査であった。その後、平成7年度に上谷遺跡の主体となる地区107,000㎡の確認調査が実施され(第2・3次確認調査)、それを受けて83,900㎡の本調査範囲が決定された。本調査は、平成8年度に28,816㎡(第2次本調査)、平成9年度に29,214㎡(第3次本調査)、平成10年度に25,870㎡(第4次本調査)を終了し、平成11年3月をもって上谷遺跡におけるすべての発掘調査を終了した。

第1表 上谷遺跡調査一覧

	調査名	調査期間	調査面積	調査地区	調査員 (◎主任調査員)	調査協力
1	上谷遺跡 第1次確認本調査 (平成4年度)	平成4年4月27日 ～ 平成4年10月14日	8,400㎡	1・2・3地区 (宙南遺跡を 一部含む)	◎藤 茂美 宮澤久史 渡辺久幸	要航業研
2	上谷遺跡 第2・3次確認調査 (平成7年度)	平成7年7月10日 ～ 平成8年2月19日	9,872㎡ /107,000㎡	——	◎藤 茂美 武藤健一 (7月10日から) 市村表和 (8月31日まで)	㈱東京航業研究所
3	上谷遺跡 第2次本調査 (平成8年度)	平成8年4月1日 ～ 平成9年3月31日	28,816㎡	4・5・6・7・ 8・9・10地区	秋山利光 (12月24日から 1月31日まで) ◎藤 茂美 武藤健一	㈱東京航業研究所
4	上谷遺跡 第3次本調査 (平成9年度)	平成9年4月1日 ～ 平成10年3月31日	29,214㎡	11・12・13・14・ 15・16・17・18・ 19・20地区	◎藤 茂美 武藤健一	㈱東京航業研究所
5	上谷遺跡 第4次本調査 (平成10年度)	平成10年4月1日 ～ 平成11年3月31日	25,870㎡	21・22・23・24・ 25・26・27・28・ 29地区	◎藤 茂美 (7月31日まで) 森 電哉 (6月8日から 7月10日まで) ◎常松成人 (6月1日から) 武藤健一	㈱東京航業研究所
6	上谷遺跡 基本整理 (平成11年度)	平成11年4月1日 ～ 平成12年3月31日	——	——	◎藤 茂美 (5月31日から) ◎常松成人 (4月7日まで) 武藤健一 (7月2日まで)	㈱東京航業研究所



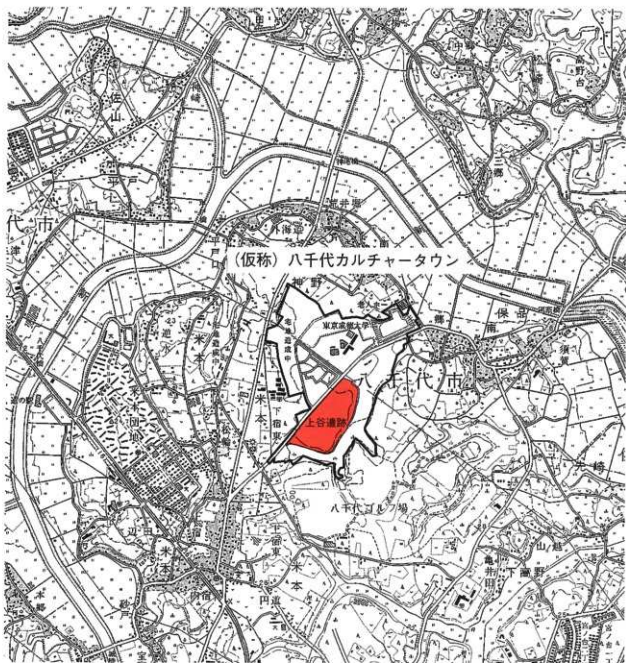


第1図 上谷遺跡位置図 (明治15年・1/25,000)

## 第2節 遺跡の立地と環境

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業は、印旛沼にほど近い八千代市の北東部、保品・神野・米本にわたる地区に計画された。開発事業地内には、上谷遺跡をはじめとして、栗谷遺跡・栗谷塚・向塚遺跡・境塚遺跡・夜山東遺跡・雷南遺跡・雷遺跡・神野群集塚の9遺跡が所在する。上谷遺跡は、この開発事業地内の南部、八千代市保品字上谷・栗谷・米本字雷に所在する。この地区は、(仮称) 八千代カルチャータウンの開発が計画されるまでは特に大きな開発もなく、八千代市内でも自然が多く残されている地域であった。そのため、上谷遺跡の現況は、一部にグラウンドや畑地があったものの、ほとんどの部分は山林で、遺跡に面した谷津は水田として利用されていた。

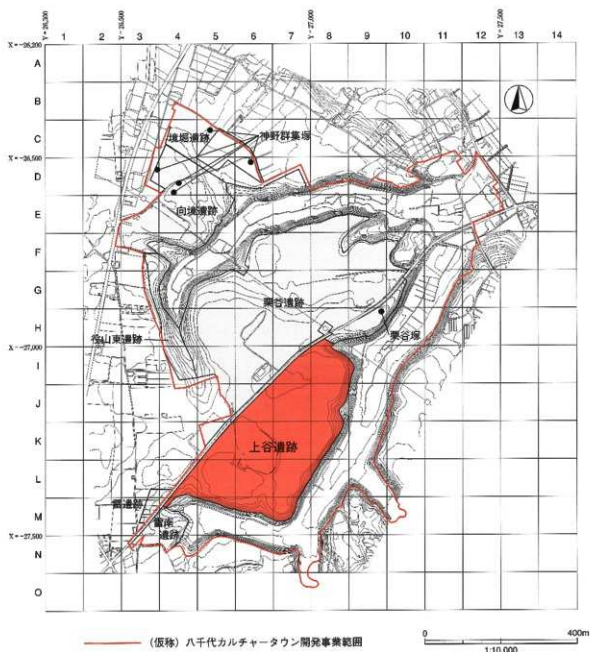
八千代市は、千葉県北部に広がる下総台地の西部に位置している。下総台地は標高20～40m前後の起伏が非常に少ない洪積台地で、長期間の浸食作用によってできた樹枝状の谷津によって開析されている。上谷遺跡が所在



第2図 (仮称) 八千代カルチャータウン位置図(平成12年・1/25,000)

する八千代市北東部の台地も印旛沼やそこに流入する新川等から複雑に入り込む樹枝状の谷津により開析されている。また、印旛沼は戦後の干拓工事等により、現在大きく後退してしまっているが、昭和30年代前半までは第1図のように新川に沿って神野・平戸地区まで広がっており、最も広がった縄文海進時には新川に沿ってさらに南に広がっていた。

印旛沼や新川沿いの台地は樹枝状の谷津によって開析されており、その谷津に面して数多くの遺跡が形成されている。上谷遺跡もそのような遺跡の一つである。上谷遺跡は印旛沼側から入り込む谷津によって開析された舌状台地上に位置しており、標高23～26mを測る。同じ舌状台地上には栗谷遺跡も所在しており、台地の中央を走る県道八千代・宗像線と東から入り込む小さな谷津が2つの遺跡の境となっている。しかし、遺跡範囲の認定はあくまで便宜的なものに過ぎず、本来は上谷遺跡と栗谷遺跡は同一台地上に連続するひとつの遺跡として認識しなければならないであろう。



第3図 （仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連遺跡地形図

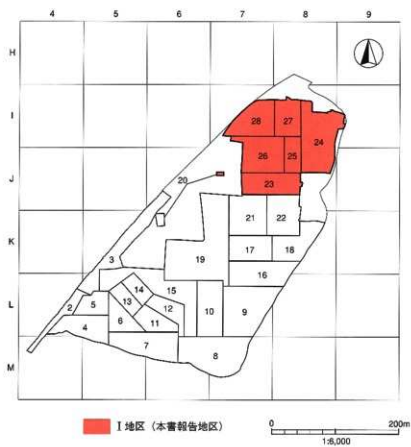
### 第3節 調査の方法

#### 1 グリッドの設定

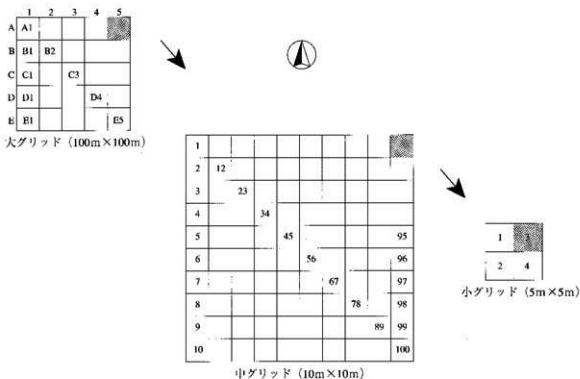
（仮称）八千代カルチャータウン開発事業関連の遺跡の調査に際して、公共座標に沿って開発事業区域全域に対しグリッドを設定した。グリッドの設定にあたっては座標 $X=-26,200$ 、 $Y=26,300$ を起点として、両軸をそれぞれ100m間隔で区切り大グリッドとした。さらに大グリッドを10m×10mの中グリッドに100分割し、またさらにこの中グリッドを5m×5mの小グリッドに4分割した。大グリッドのX軸は北から南へA・B・C・・・とアルファベットで表記し、西から東のY軸は1・2・3・・・と数字で表記した。中グリッドは、10m×10mのグリッド個々に1・2・3～100の番号を付して表記した。大グリッド内の北西隅を1とし、南東隅を100としている。小グリッドは、5m×5mのグリッド個々に1・2・3・4の番号を付して表記した。通常、グリッドの呼称は、「A1-1、A1-2、A2-99、A2-100、・・・・」のように大・中のグリッドの表記



第4図 上谷遺跡調査区域図



第5図 上谷遺跡本調査地区割図



第6図 グリッド概念図

の組み合わせにより行い、必要に応じてこれに小グリッドを組み合わせて「A1-1-1、A1-1-2、A2-99-3、A2-100-4、・・・」のように呼称した。第6図にグリッドの概念図を図示したので参照していただきたい。

## 2 調査方法

上谷遺跡の発掘調査は、第1次確認本調査（平成4年度）、第2・3次確認調査（平成7年度）、第2次本調査（平成8年度）、第3次本調査（平成9年度）、第4次本調査（平成10年度）にわたり実施された。第1次確認本調査においては、重機により調査区内の表土を全面除去したのち、確認調査を実施し、遺構数の確定後、そのまま本調査へと移行した。第2・3・4次本調査においては、第2・3次確認調査（トレンチ調査）の結果に基づいて、調査区を設定し、重機で表土を除去後、人力により遺構の検出を行い、遺構の調査を行った。検出された遺構の調査は遺構の掘削、出土遺物の取り上げ、土層断面の記録、実測・写真等の記録作業を行った。そして最後に調査区全域の航空写真を撮影し、これにより調査を終了した。

本調査では遺構・遺物が多量に検出されることが予想され、また広大な調査面積であるため、結果的には29地区に遺跡を分割し、各調査員に担当地区を設けて実施し、主任調査員が全体の統括を行った。遺物の取り上げについては、光波測距儀を使用したトータルステーションシステムを採用した。また、遺構の実測については、一部を除き航空写真測量により対応した。

## 3 遺構の表記方法及び遺構番号の対応

遺構番号は本調査の時点では、地区ごとに遺構の種類に関係なく001から順に通し番号を付した。遺物への注記、図面・写真への記録はこれによる。しかし、本書では遺構の種類別に通しの遺構番号を新たに付け直した。

第2表 上谷遺跡新旧遺構番号対照表

旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号	旧番号	新番号
23-001a	A070	24-013	A062	25-008	A041	26-037	D017
23-001b	D031	24-014	A063	25-009	A042	27-001	A011
23-002	A071	24-015	A064	25-010	A043	27-002	A012
23-003a	A072a	24-016	A065	25-011a	A044	27-003	A013
23-003b	A072b	24-017	D018	25-011b	A045	27-004	A014
23-004	D032	24-018	D019	25-012	A046	27-005	A015
23-005	D033	24-019	D020	25-013	A047	27-006	A016
23-006	D034	24-020	D021	25-014	A048	27-007	A017
23-007	D035	24-021	A066	25-015	A049	27-008	A018
23-008	D036	24-022	B005	25-016	F005	27-009	A019
23-009	D037	24-023	A067	25-017	F006	27-010	A020
23-010	D038	24-024	C002	25-018	F007	27-011	B001
23-011	F019	24-025	A068	26-001	A024	27-012a	A021a
23-013	F020	24-026	A069	26-002	F002	27-012b	A021b
23-014	D039	24-027	F008	26-003	C001	27-013	A022
23-015	F021	24-028	F009	26-004	A025	27-014a	A023
23-016	F022	24-029	D022	26-005	A026	27-014b	D002
23-017	F023	24-030	F010	26-006	A027	27-015	B002
23-018	F024	24-031	F011	26-007	A028	27-016	D003
23-019	D040	24-032	F012	26-008	A029	27-017	D004
23-020	D041	24-033	F013	26-009	A030	27-018	F001
23-021	F025	24-035	F014	26-010	A031	27-019	D005
23-022	F026	24-037	D023	26-011	A032	27-020	D006
23-023	F027	24-038	D024	26-012	A033	27-021	D007
23-024	F028	24-039	D025	26-013	A034	28-001	A001
23-025	F029	24-040	D026	26-014	A035	28-002	A002
23-026	F030	24-041	D027	26-015	A036	28-003	A003
23-027	F031	24-042	D028	26-016	A037	28-004	A004
24-001	A050	24-043	D029	26-018	D008	28-005	A005
24-002	A051	24-044	F015	26-020	A038	28-006	A006
24-003	A052	24-045	F016	26-025	D009	28-007	A007
24-004	A053	24-046	F017	26-026	F003	28-008	A008
24-005	A054	24-047	F018	26-027	F004	28-009	A009
24-006	A055	24-048	D030	26-029	D010	28-010	A010
24-007	A056	25-001	A039	26-030	D011	28-011	D001
24-008	A057	25-002	B001	26-031	D012		
24-009	A058	25-003	B002	26-032	D013		
24-010	A059	25-004	B003	26-033	D014		
24-011	A060	25-005	B004	26-035	D015		
24-012	A061	25-007	A040	26-036	D016		

住居跡には「A」、掘立柱建物跡には「B」、方形周溝墓・方形周溝状遺構には「C」、土坑墓には「D」、溝には「E」、炉穴には「F」、その他の遺構には「I」の記号を付して001からの通し番号とした。第2表に本書で報告する遺構番号の新旧対照表を掲載したので参照していただきたい。

## 第4節 調査成果の報告方針

(仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連遺跡の調査成果の報告方針については、既刊の「千葉県八千代市栗谷遺跡 (仮称)八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅰ—第1分冊—」にて詳しく説明しているので、そちらを参照していただきたい。ここでは上谷遺跡の報告書の編集方針について簡単に触れておきたい。

上谷遺跡の報告書は、全5分冊を予定している。報告にあたっては、雷南遺跡に含まれる1地区を除く2～29地区の全28地区を統合し、遺跡の北側から5つの地区に再度分割した(註1)。再分割した地区名については、発掘調査時の地区名と区別するため、「Ⅰ地区、Ⅱ地区、Ⅲ地区、Ⅳ地区、Ⅴ地区」というようにローマ数字で表記した。そして、各分冊ごとに1つの地区を時代別に報告し、最終冊において遺跡の調査成果のまとめを行うという体裁にした。なお、遺構に伴わない遺物については最終冊にまとめて報告することとした。

本書は、上谷遺跡の第1分冊であるため、報告する地区はⅠ地区である。Ⅰ地区は本調査時の地区名では、23・24・25・26・27・28地区及び20地区の一部にあたる。

(註1) Ⅰ地区は雷南遺跡の範囲内に含まれるため、上谷遺跡の報告からは除外し、雷南遺跡にて報告することとした。また、29地区は旧石器時代のトレンチ調査である。トレンチは上谷遺跡全域に散在しているため、29地区については上谷遺跡の第5分冊で報告する予定である。



第 7 圖 上谷遺跡 I 地區遺構配置圖



## 第2章 遺構と遺物

### 第1節 I地区の概要

前章で述べたように、上谷遺跡は印旛沼から入り込む谷津によって開削された舌状台地上に所在する。同じ舌状台地上には栗谷遺跡も所在しており、舌状台地の中央を走る県道八千代・宗像線と東側から入り込む小さな谷津が便宜上2つの遺跡の境となっている。I地区は本調査時の地区名でいうと、上谷遺跡23・24・25・26・27・28地区及び20地区の一部にあたり、上谷遺跡のもっとも北側の栗谷遺跡に隣接した区域である。I地区の現況は山林と畑地であった。県道八千代・宗像線に接した地区が畑地となっており、この地区には農耕用トレンチャーによる溝状のカクランが多く認められる。

I地区において検出された遺構は、縄文時代住居跡1軒・土坑16基・竈穴31基、弥生時代住居跡35軒・方形周溝築2基・土坑1基、古墳時代住居跡13軒・土坑2基、奈良・平安時代住居跡25軒・掘立柱建物跡5棟・土坑14基、中近世以降土坑8基・溝2条である。

### 第2節 縄文時代

縄文時代の遺構は、前述したように住居跡1軒、土坑16基、竈穴31基が検出された。一部早期前半や中期後半の遺構が検出されているものの、ほとんどの遺構が中期後半の所産である。また、遺物の出土がない遺構についても覆土等から判断して早期後半の所産と思われる。

第3表 縄文時代住居跡一覽 (単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	規模(主軸×横軸)	壁高	伊
A038	J8-3	N-88°-W	3.8×2.6	0.3	1基
プランは不整形矩形。伊は壁かに被熱している程度。					

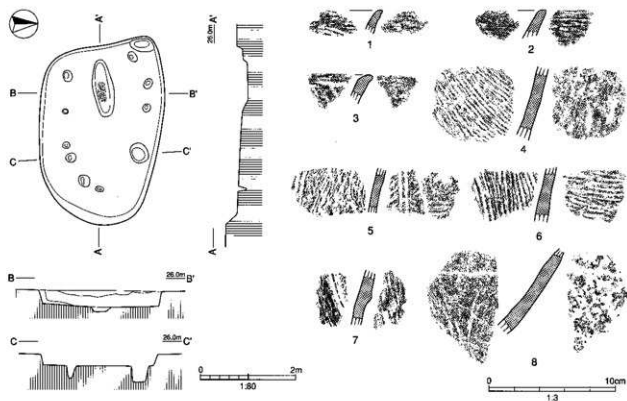
第4表 縄文時代土坑一覽 (単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
D004	I8-14	—	0.5×0.4	0.2	貝片出土。
D005	I8-5	—	1.0×0.75	0.2	
D010	I7-90、J7-81	—	2.5×0.95	0.2	
D013	I7-79	—	2.4×1.2	0.2	トレンチャーによるカクランを受ける。
D015	I7-54	—	3.0×1.0	0.2	
D016	J7-64	—	3.3×1.55	0.25	
D017	J7-64	—	1.7×1.0	0.2	
D022	I8-67	—	0.95×0.8	0.25	
D023	I8-50	—	0.85×0.8	0.15~0.2	竈跡。
D024	I8-50	—	0.25×0.25	0.13	埋裏。
D026	I8-41	—	1.3×0.85	0.2	A058に切られる。
D028	I8-57	—	2.6×1.2	0.4	
D029	I8-43	—	2.0×1.3	0.2	
D030	I8-60	—	2.6×1.0	0.1~0.25	
D040	J7-65	—	1.15×0.7	0.2	
D041	J7-86	—	4.45×1.3	0.35~0.5	

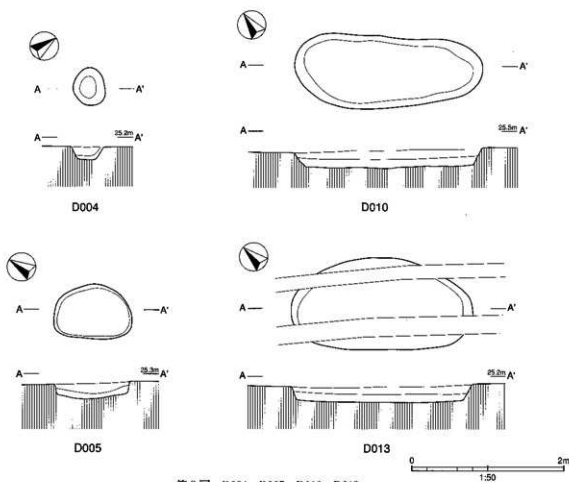
第5表 縄文時代伊六 瓦

(単位:m)

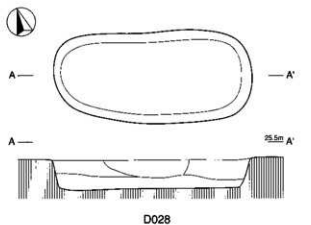
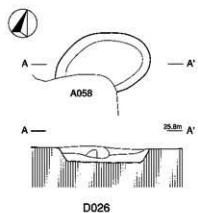
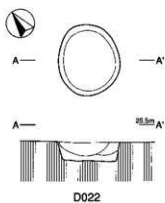
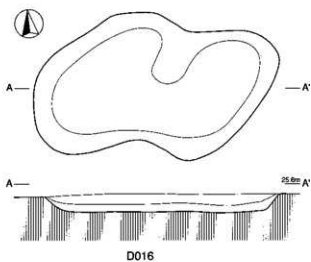
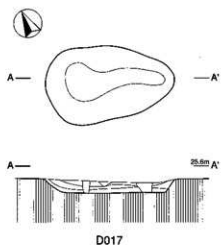
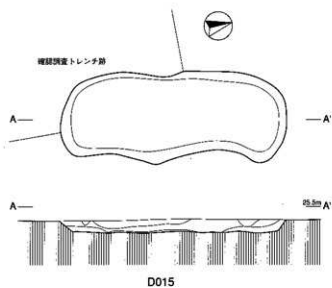
遺物番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
F001	18-4	N-57°-W	0.75×0.6	0.1	
F002	18-13	—	4.25×2.6	0.2~0.45	A024に切られる。
F003	17-83	N-116°-W	1.7×1.25	0.1~0.2	
F004	17-72	N-167°-E	1.95×1.4	0.1~0.25	
F005	18-39	N-12°-W	<1.5>×<1.3>	0.4	A046に切られる。
F006	18-39	N-50°-W	3.1×1.8	0.35	
F007	18-32	—	<2.5>×<1.25>	0.25~0.6	A042に切られる。
F008	18-55	N-8°-E	0.6×0.5	0.05	
F009	18-55	N-177°-W	1.8×1.25	0.05	
F010	18-78	N-154°-E	1.1×0.85	0.2	
F011	18-79	N-44°-W	1.05×1.0	0.2~0.25	
F012	18-79	—	0.9×0.8	0.2	
F013	18-58	—	<1.1>×<0.15>	0.25	A064に切られる。
F014	18-69	N-52°-E	0.7×0.7	0.2	
F015	18-42・52	N-77°-W	4.25×0.85	0.2~0.35	B005に切られる。
F016	18-61	—	0.9×<0.7>	0.15	A057に切られる。
F017	18-50・18-41	—	3.4×2.7	0.2~0.4	F018と重複。
F018	18-41	—	2.7×1.6	0.15	D025に切られる。F017と重複。火床はカクランにより消失。
F019	18-6・16	N-161°-E	2.4×1.0	0.35	
F020	17-96	—	3.45×0.9	0.2~0.4	
F021	17-86・87	N-57°-E	1.0×0.8	0.05~0.2	
F022	17-87	N-28°-W	0.65×0.6	0.2	
F023	17-87	N-41°-W	1.0×0.85	0.05	
F024	17-87	N-123°-W	0.7×0.5	0.1	
F025	17-77	—	2.3×1.8	0.3~0.4	
F026	17-68	N-110°-E	3.2×1.2	0.1~0.25	
F027	17-96	N-16°-E	3.05×0.75	0.2	
F028	17-87	N-179°-E	1.8×0.75	0.2	
F029	17-96	N-152°-W	1.15×0.85	0.3	
F030	18-36	—	0.6×0.5	0.1	
F031	17-86	N-21°-E	1.1×1.1	0.25~0.35	



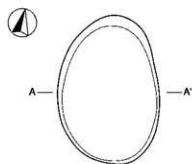
第 8 图 A038



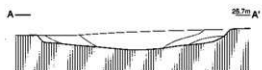
第 9 图 D004 · D005 · D010 · D013



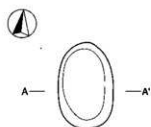
第10図 D015・D016・D017・D022・D026・D028



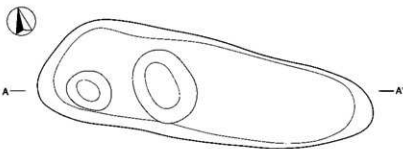
D029



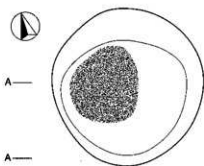
D030



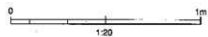
D040



D041

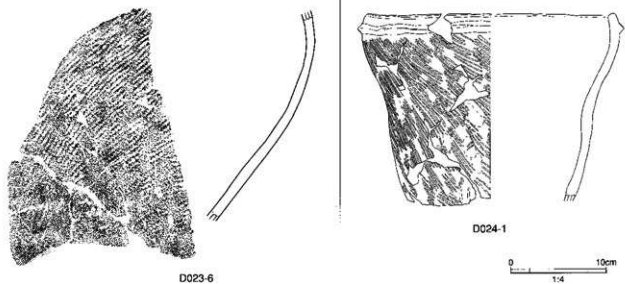


D023

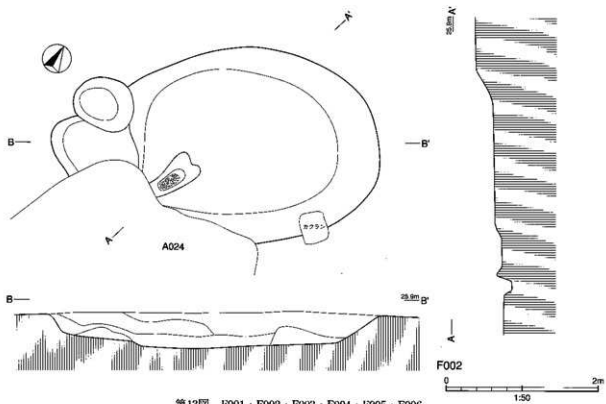
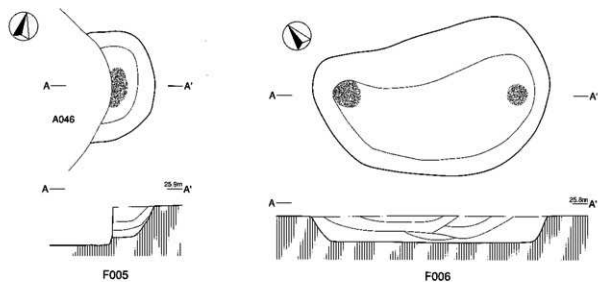
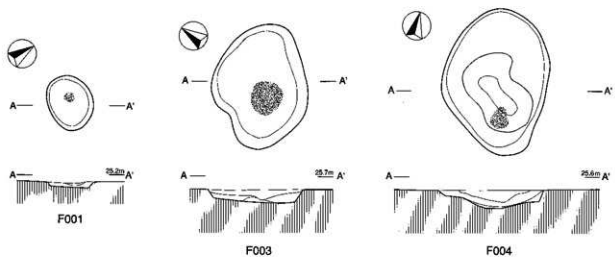


D024

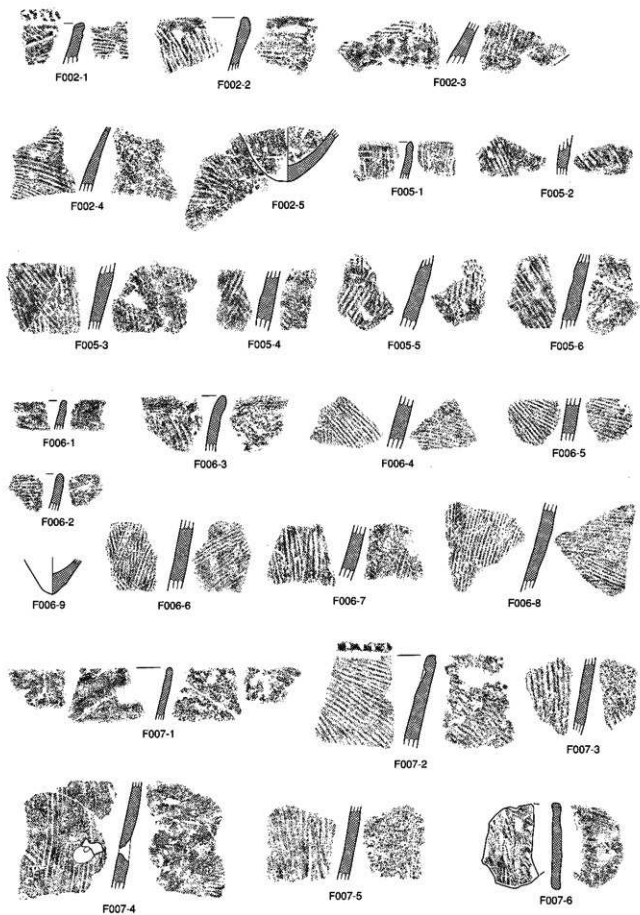
第11网 D023 · D024 · D029 · D030 · D040 · D041



第12圖 D013・D023・D024・D030・D041出土遺物



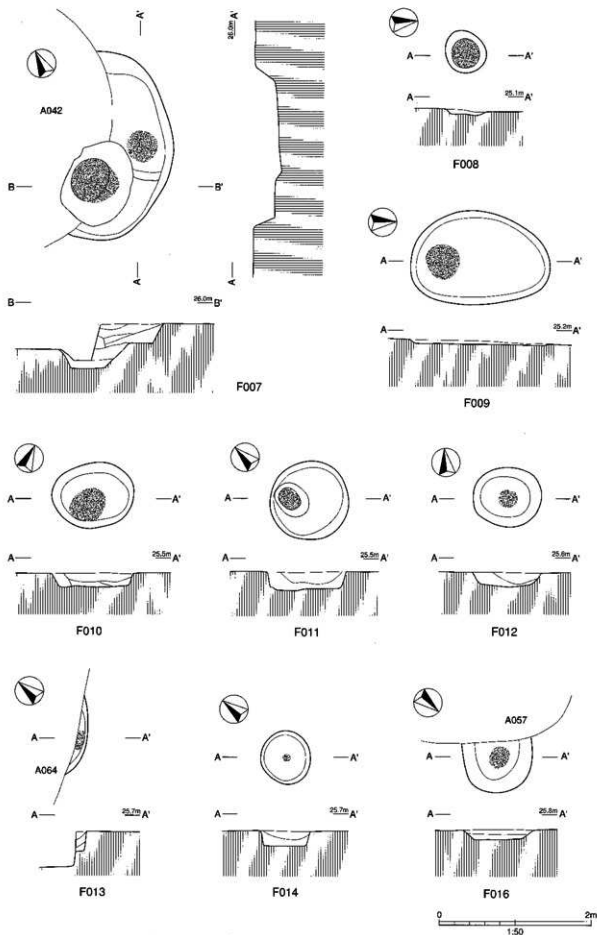
第13図 F001・F002・F003・F004・F005・F006



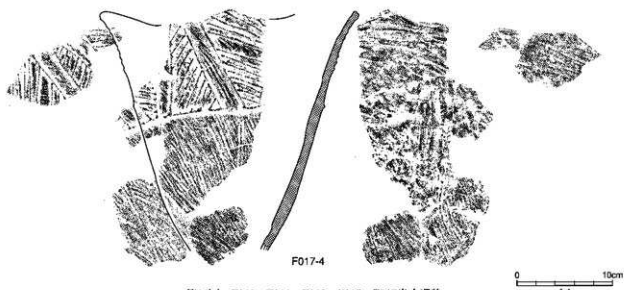
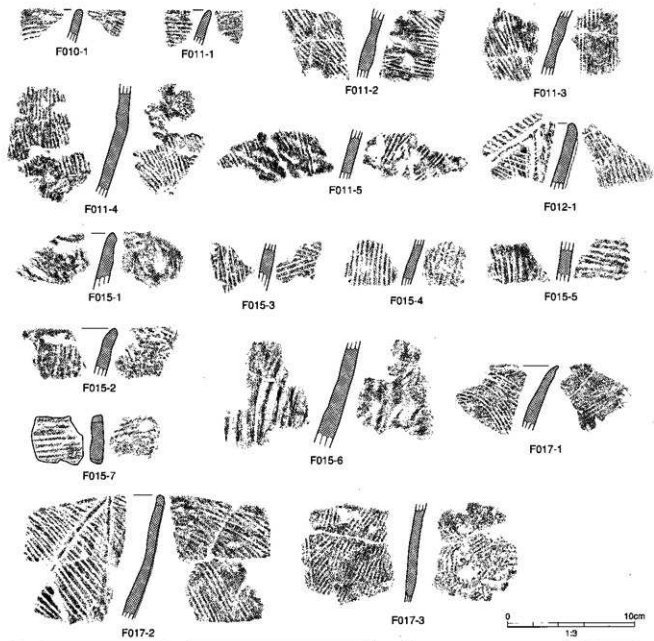
第14图 F002・F005・F006・F007出土遺物

0 10cm  
1:3

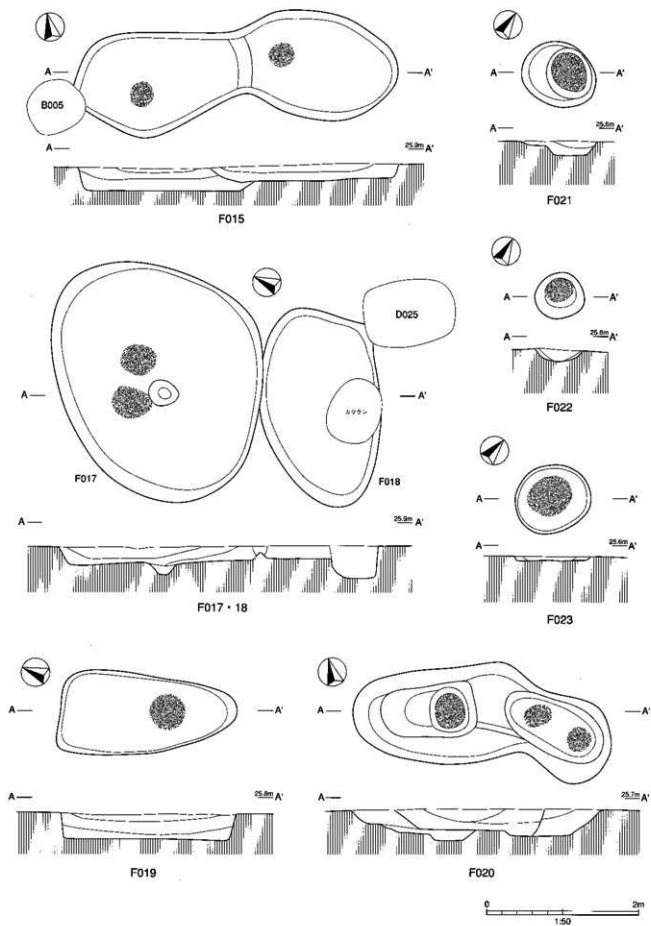




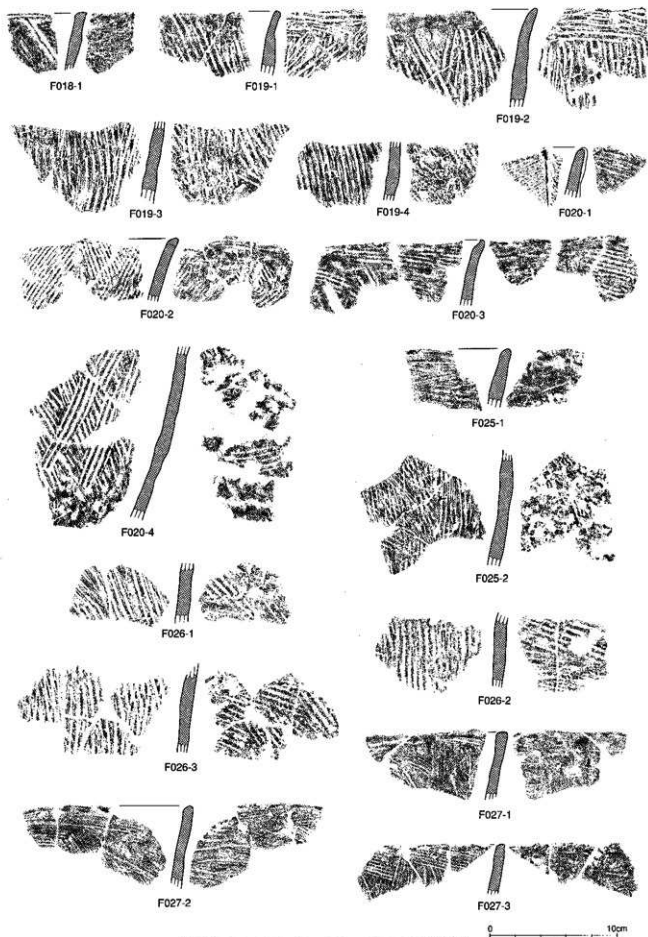
第15图 F007 · F008 · F009 · F010 · F011 · F012 · F013 · F014 · F016



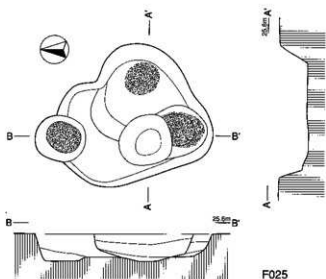
第16组 F010・F011・F012・F015・F017出土遺物



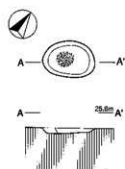
第17图 F015 · F017 · F018 · F019 · F020 · F021 · F022 · F023



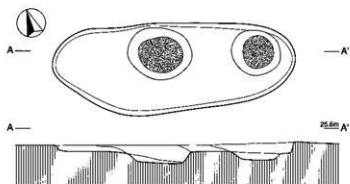
第18図 F018・F019・F020・F025・F026・F027出土遺物



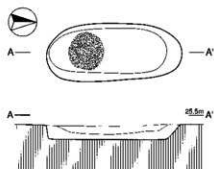
F025



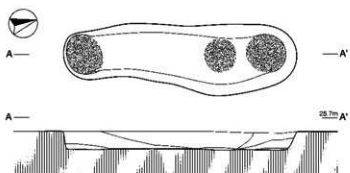
F024



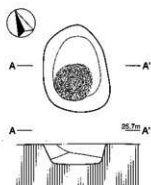
F026



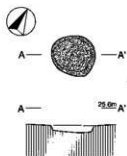
F028



F027



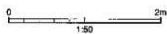
F029



F030



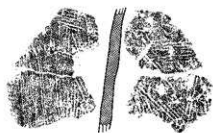
F031



第19图 F024 · F025 · F026 · F027 · F028 · F029 · F030 · F031



F027-4



F027-5



F028-1



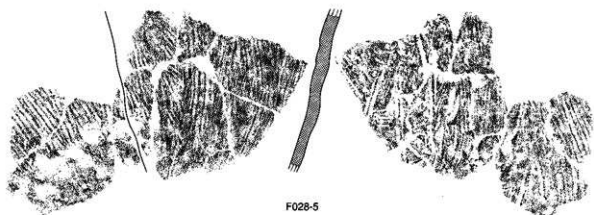
F028-2



F028-3



F028-4



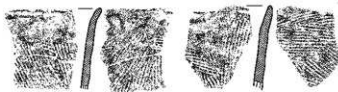
F028-5



F029-2

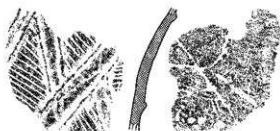


F029-1



F031-1

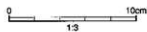
F031-2



F031-4



F031-3



第20图 F027・F028・F029・F031市十遺物

### 第3節 弥生時代

弥生時代の遺構としては、住居跡35軒、方形周溝墓2基、土坑1基が検出された。ほとんどの遺構が後期の所産で、覆土上層～中層からは古墳時代土師器の出土が多い。

第6表 弥生時代住居跡一覧 (単位:m)

遺構番号	位置	主軸方位	規模(主軸×横軸)	壁高	炉
A001	I7-98・I8-8	N-77°-W	8.1×6.7	0.7	—
	トレンチャーによるカクランを受ける。炉は検出されなかった。				
A002	I7-87	N-72°-W	3.95×3.25	0.45	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A003	I7-78	N-57°-W	2.65×2.5	0.35	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A005	I7-77・86・87	N-48°-W	4.0×3.6	0.55	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A008	I7-84・85	N-43°-W	9.7×7.75	0.45～0.75	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A009	I7-83・84	N-60°-W	2.3×2.05	0.25	1基
A013	I8-27	N-70°-W	3.95×3.5	0.4	—
	E002に切られる。炉は検出されなかった。				
A015	I8-16	N-53°-W	3.95×3.7	0.35	5基
	床直上より粘土検出。				
A016	I8-7・17	N-57°-W	7.1×5.35	0.5	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。床直上より粘土検出。				
A018	I8-5・6	N-75°-W	4.9×3.85	0.7	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A020	I8-4・5	N-49°-W	5.3×4.3	0.7	1基
A022	I8-23	N-32°-W	4.45×<4.55>	0.15	1基
	緩斜面に立地。A021ab・A023に切られる。				
A028	I8-11	—	2.75×2.6	0.1	—
	炉は検出されなかった。				
A029	I7-91・I8-1	N-38°-W	6.3×4.7	0.55	1基
A032	I8-9	N-70°-W	5.55×4.15	0.55～0.7	1基
A042	I8-21・22・31・32	N-54°-W	4.1×3.8	0.35	1基
	F007を切る。				
A043	I8-31	N-56°-W	5.3×4.4	0.7	1基
A045	I8-40・50	N-58°-W	7.85×5.8	0.7	1基
	A044に切られる。				
A046	I8-39	N-58°-W	4.1×3.25	0.5	1基
	F005を切る。				
A047	I8-29	N-65°-W	6.1×4.45	0.8	1基
A048	I8-30	N-85°-W	2.9×<2.5>	0.25	1基
	A049に切られる。				

A051	J8-53		3.35×3.3	0.1	—
	炉は検出されなかった。				
A052	J8-73	N-44°-W	3.4×3.5	0.2~0.3	1基
	緩斜面に立地。				
A053	J8-83・84	N-64°-W	3.2×2.8	0.3~0.5	1基
	緩斜面に立地。				
A054	J8-72・73	N-58°-W	4.5×3.6	0.5~0.6	1基
	緩斜面に立地。				
A055	J8-62	N-67°-W	3.2×3.05	0.4	1基
A056	J8-72・82	N-75°-W	4.2×3.55	0.4~0.6	3基
	緩斜面に立地。				
A057	J8-51・61	N-41°-W	3.2×2.8	0.4	1基
	F016を切る。				
A060	J8-70、J8-61	N-64°-W	6.1×4.9	0.4~0.5	3基
A061	J8-69	N-36°-W	3.6×3.5	0.2	1基
A062	J8-68	N-48°-W	5.1×4.4	0.35	1基
A064	J8-47・48・57・58	N-30°-W	6.8×4.5	0.5	1基
A065	J8-67	N-67°-W	4.0×3.9	0.2~0.35	2基
A066	J8-42	N-48°-W	4.1×3.8	0.4	—
	B005に切られる。炉は検出されなかった。				
A067	J8-56	N-59°-W	4.0×3.85	0.2	1基

第7表 弥生時代方形周溝墓一覧

(単位m)

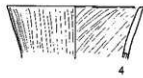
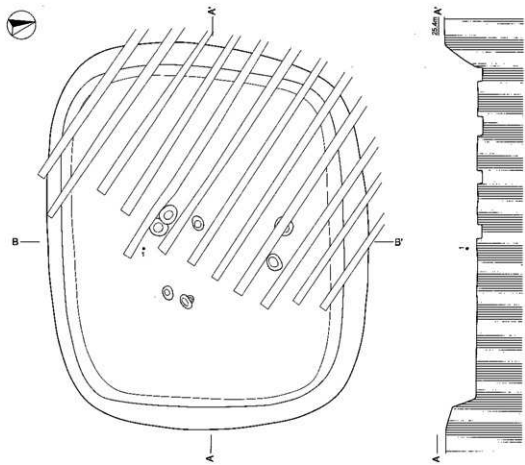
遺構番号	位置	主軸方位	規模(主軸×横軸)	周溝幅	周溝深さ
C001	J7-93・94、J8-3・4	N-6°-W	6.1×6.85	0.7~1.4	0.2
	主体部は検出されなかった。				
C002	J8-56	N-63°-W	5.2×4.6	0.5~0.75	0.2
	主体部1基。長軸3.6×短軸1.1。深さ0.4。				

第8表 弥生時代土坑一覧

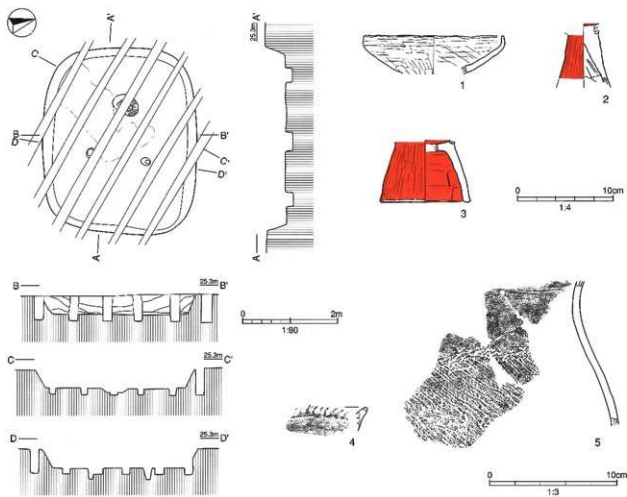
(単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
D009	J8-1	—	0.9×0.6	0.3	大母岩出土。葛枕。

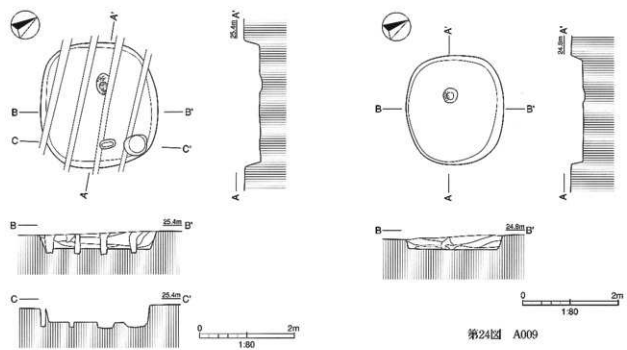




第21图 A001

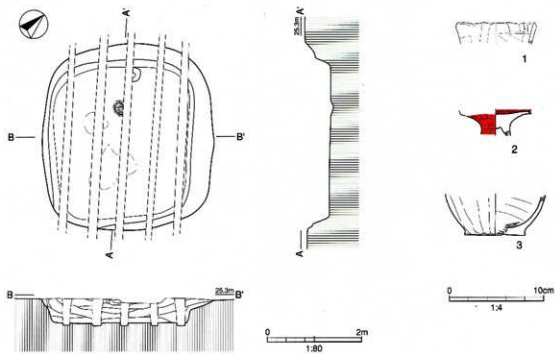


第22图 A002

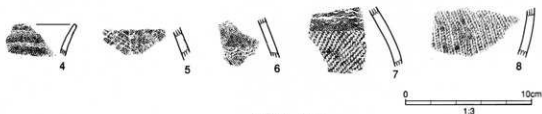
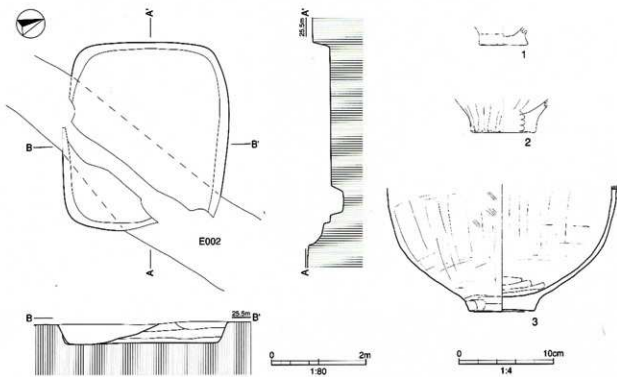


第23图 A003

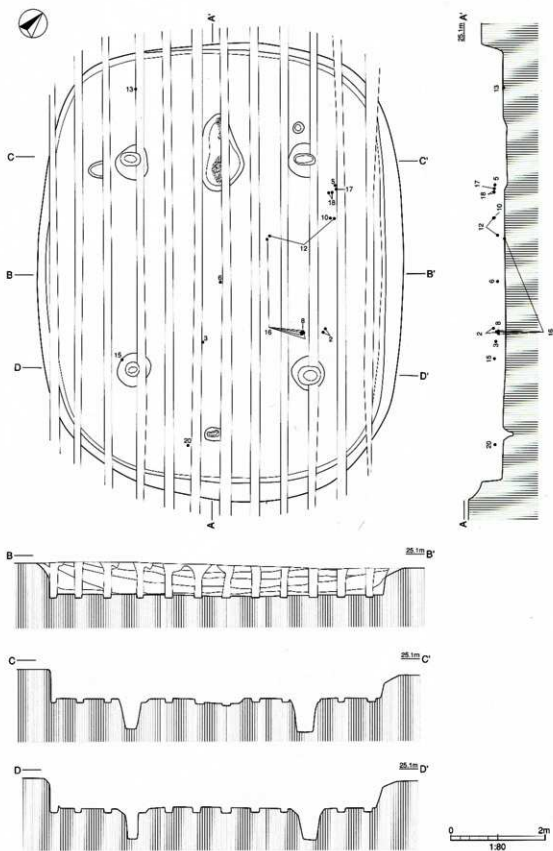
第24图 A009



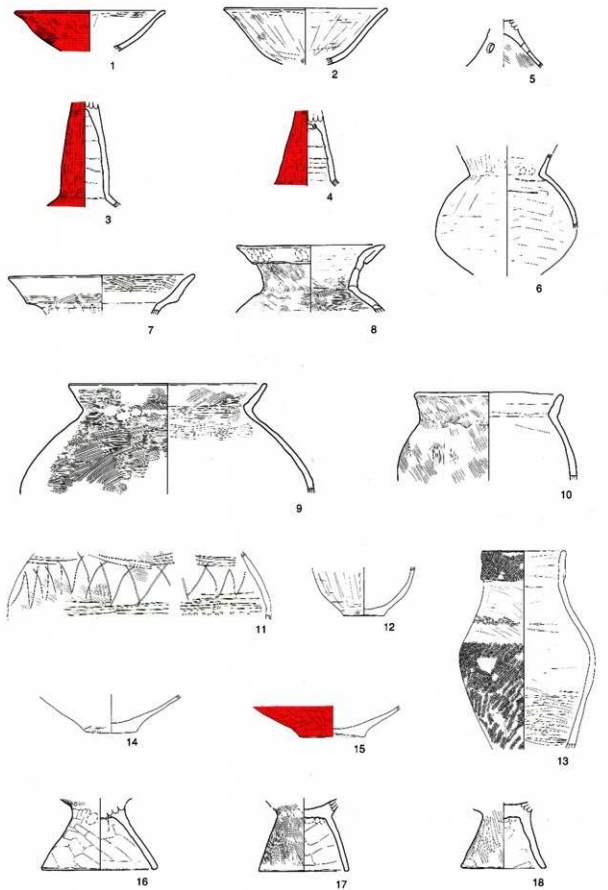
第25图 A005



第26图 A013



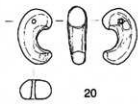
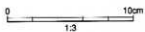
第27图 A008(1)



第28图 A008(2)



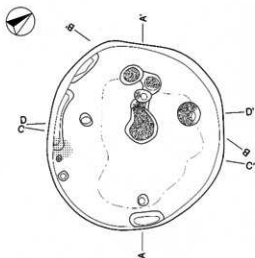
19



20



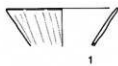
第29图 A008(3)



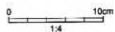
25.4m



25.4m



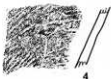
1



2



3



4



6



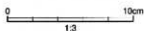
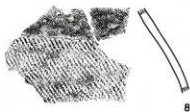
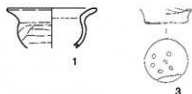
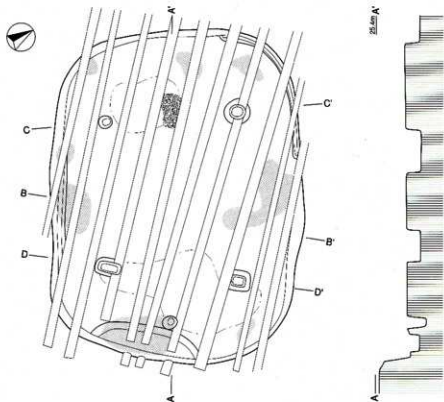
7



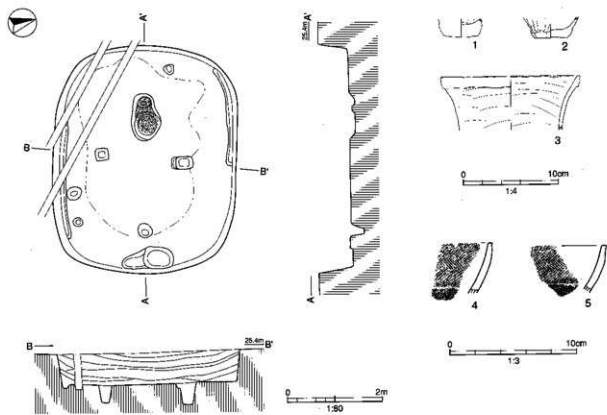
5



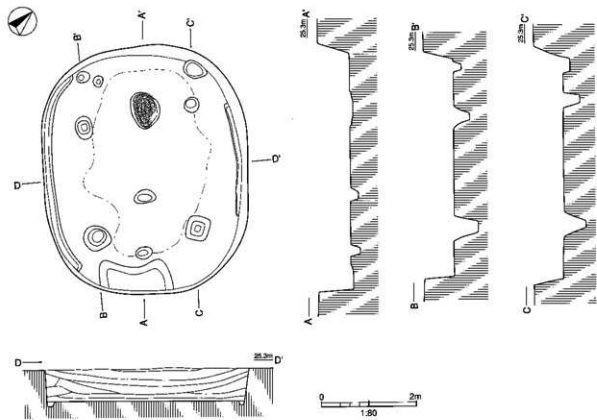
第30图 A015



第31图 A016

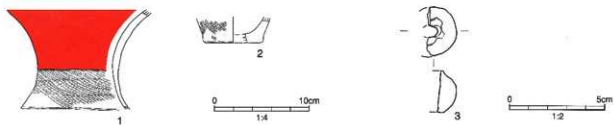


第32图 A018

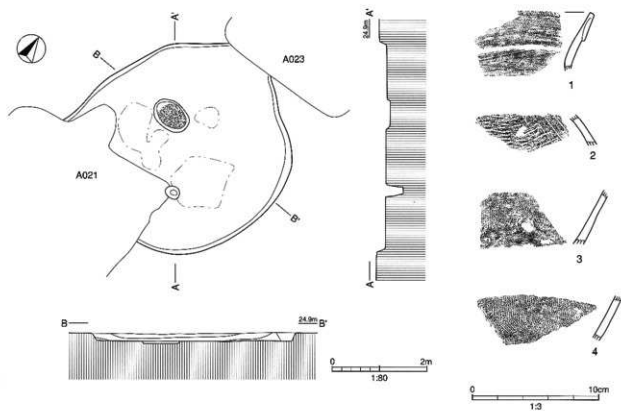


第33图 A020(1)

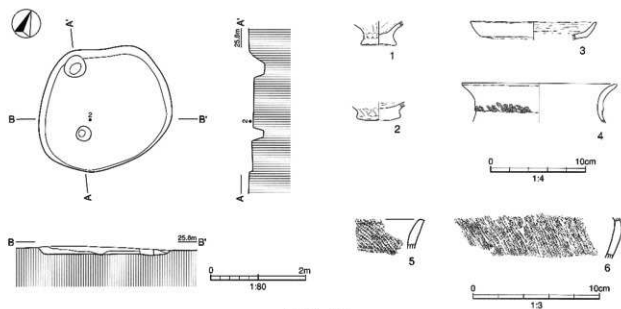




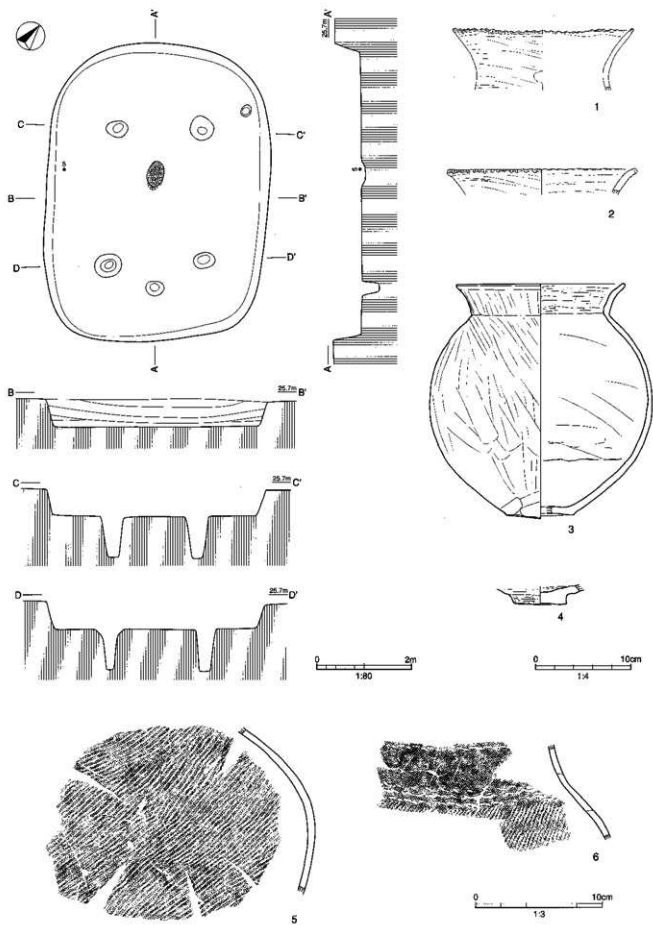
第34图 A020(2)



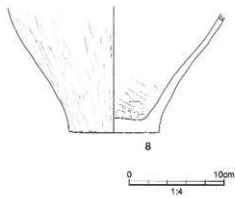
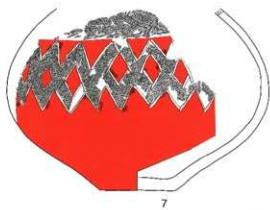
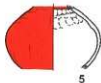
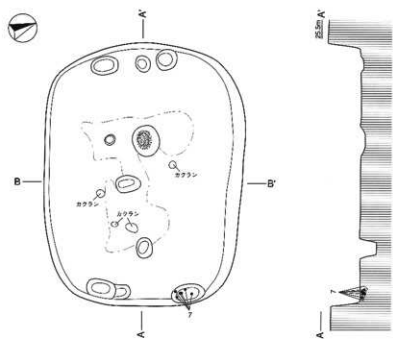
第35图 A022



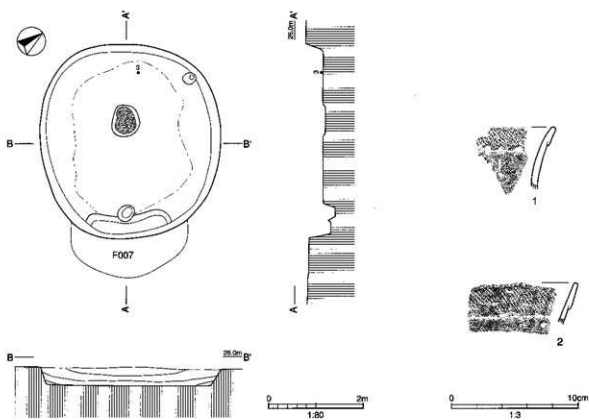
第36图 A028



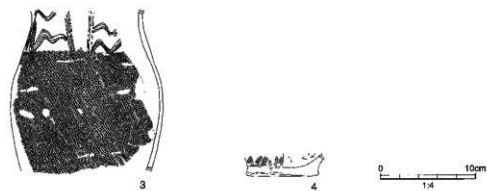
第37图 A029



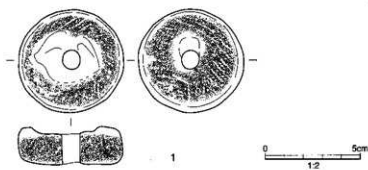
第38图 A032

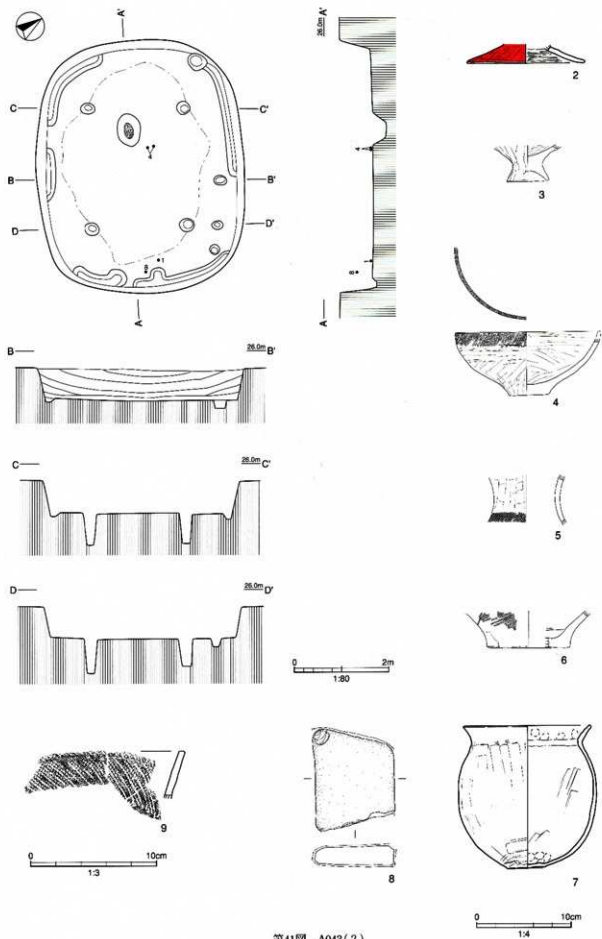


第39图 A042

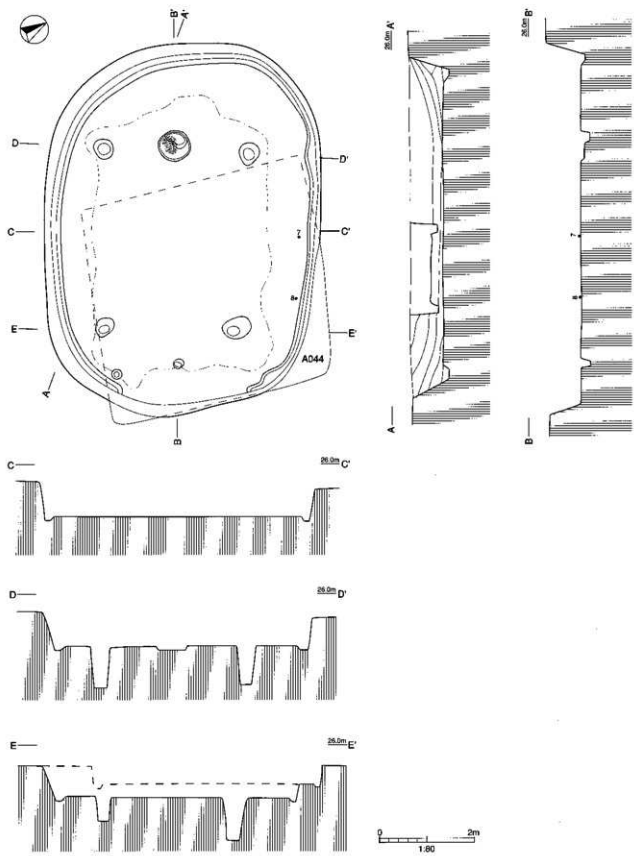


第40图 A043(1)

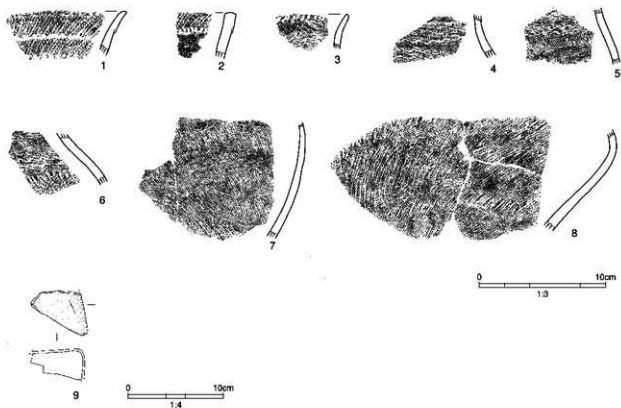




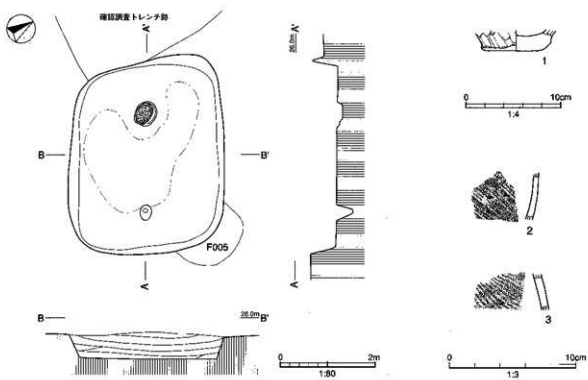
第41图 A043(2)



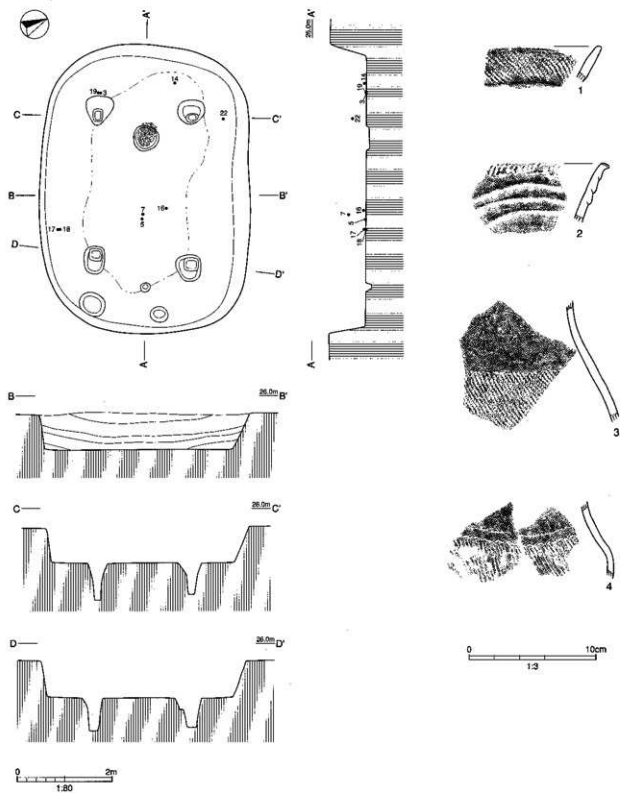
第42图 A045(1)



第43区 A045(2)

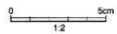
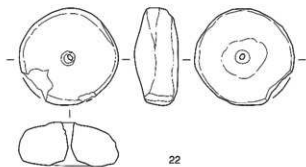
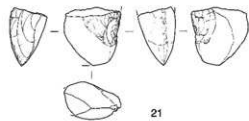
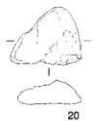
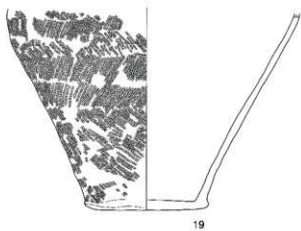
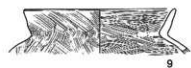
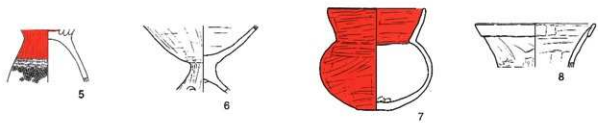


第44区 A046

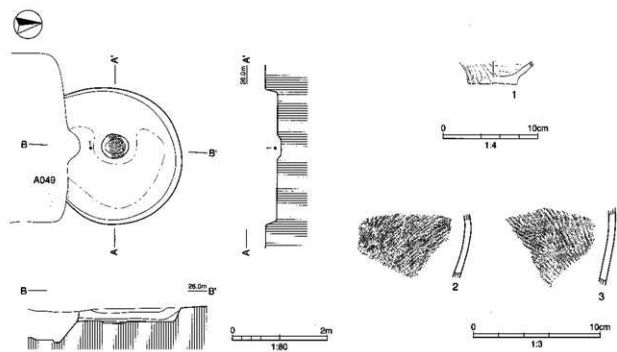


第45图 A047(1)

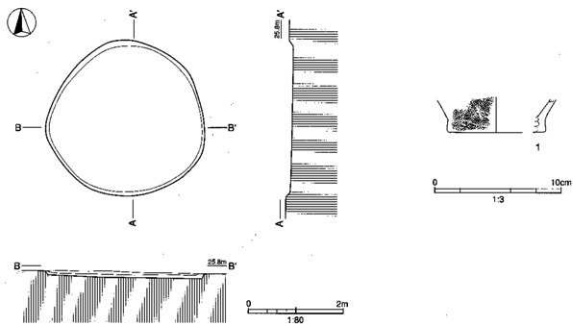




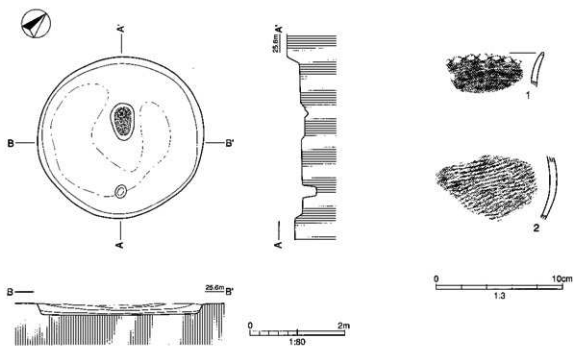
第46圖 A047(2)



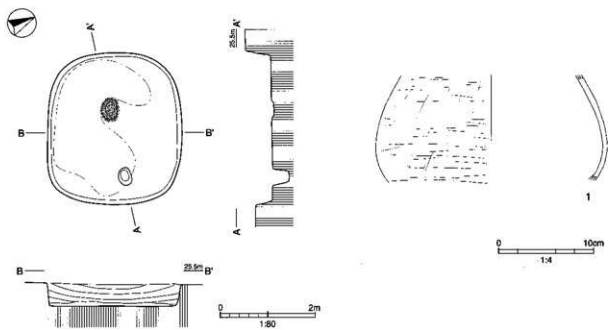
第47图 A048



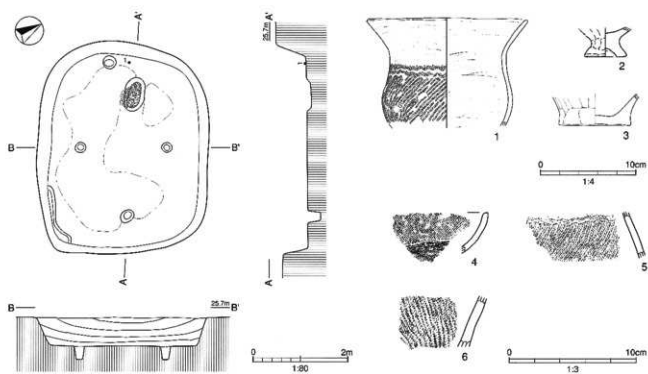
第48图 A051



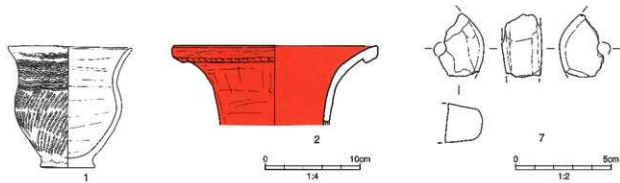
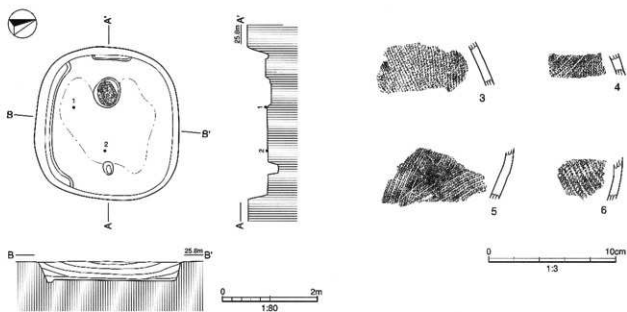
第49图 A052



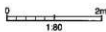
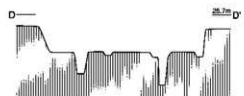
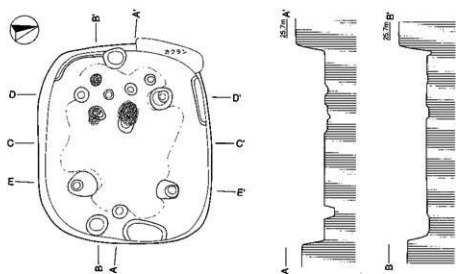
第50图 A053



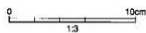
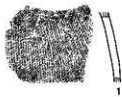
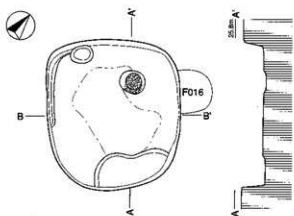
第51图 A054



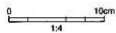
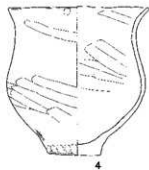
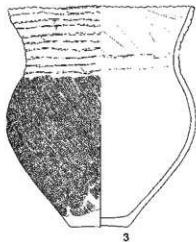
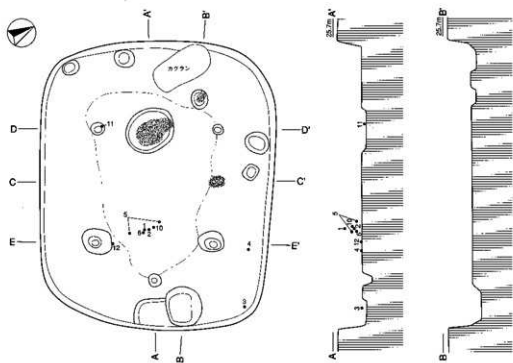
第52图 A055



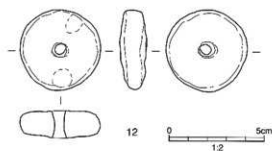
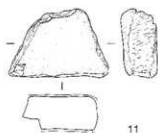
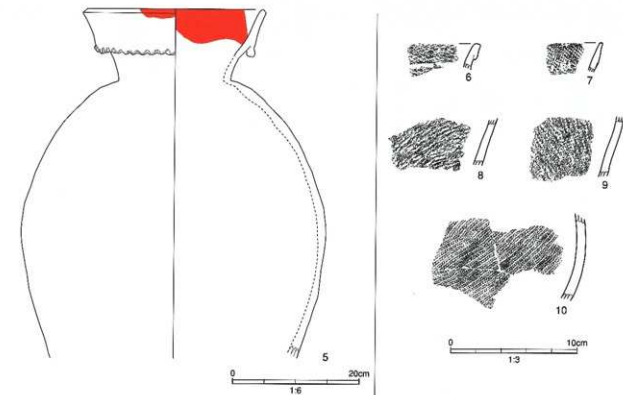
第53图 A056



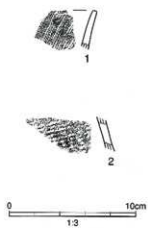
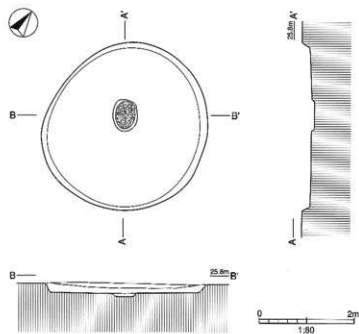
第54图 A057



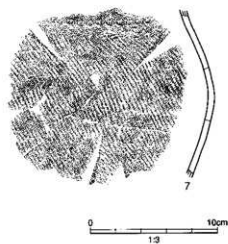
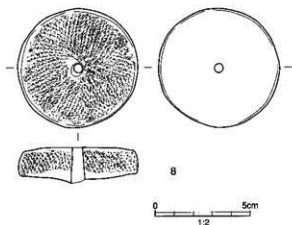
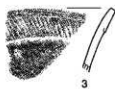
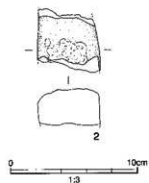
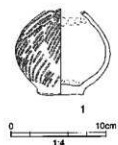
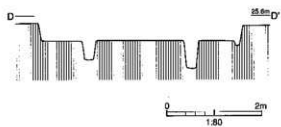
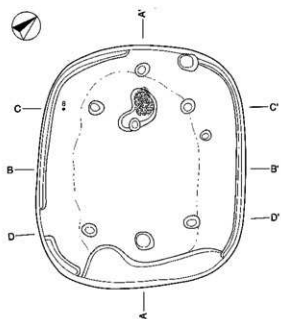
第55号 A060(1)



第56图 A060(2)

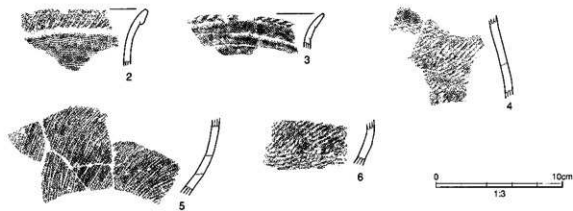
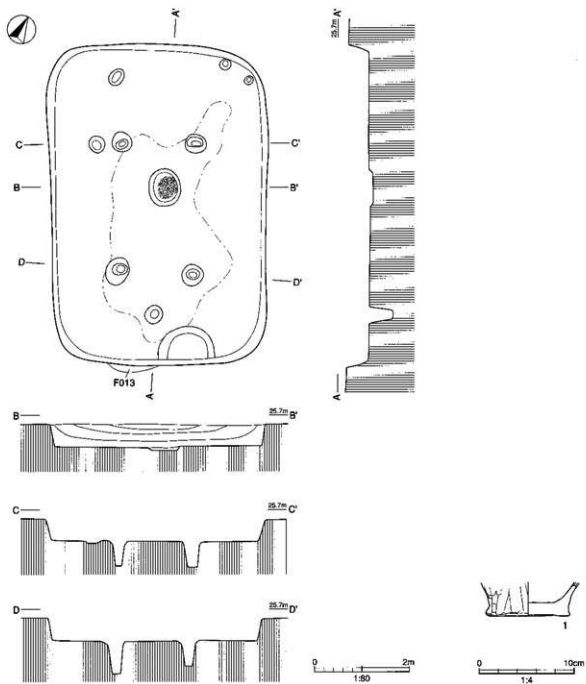


第57图 A061

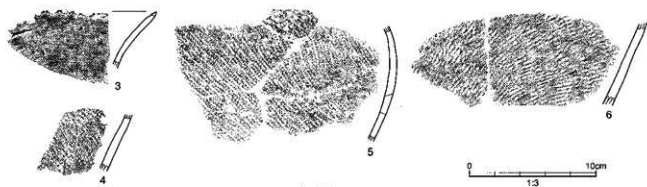
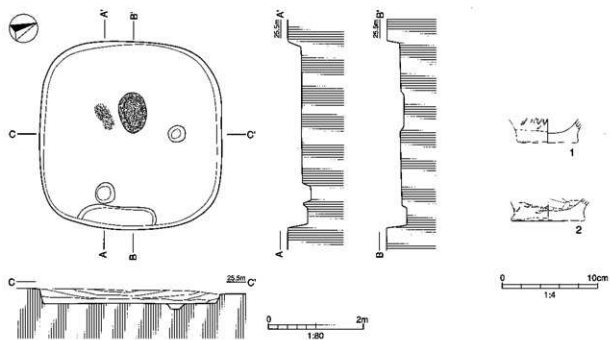


第58图 A062

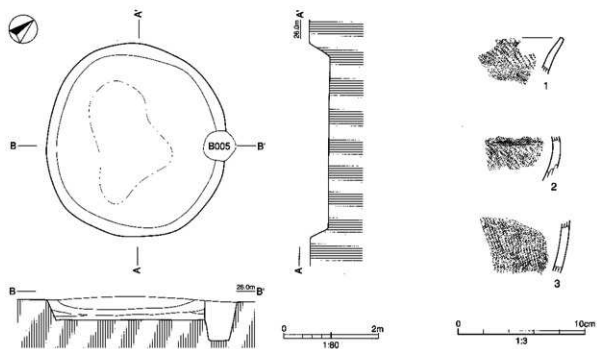




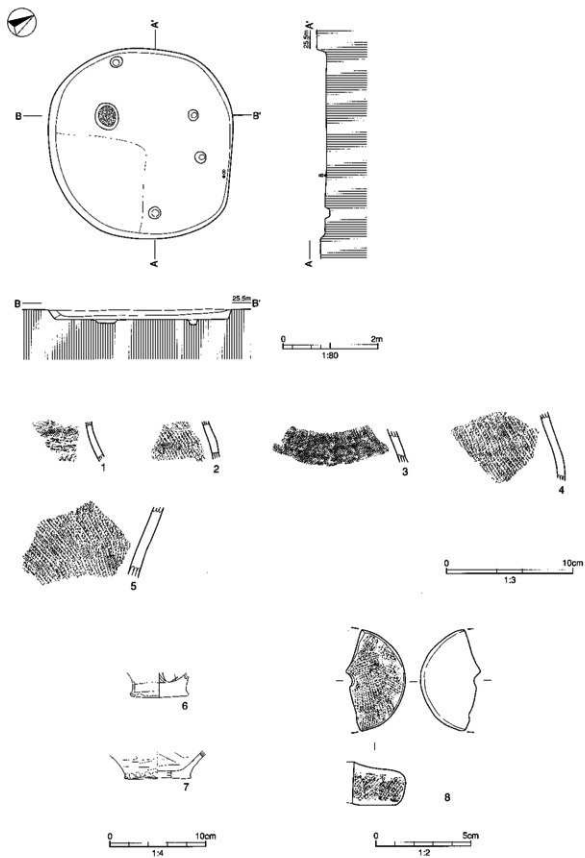
第59图 A064



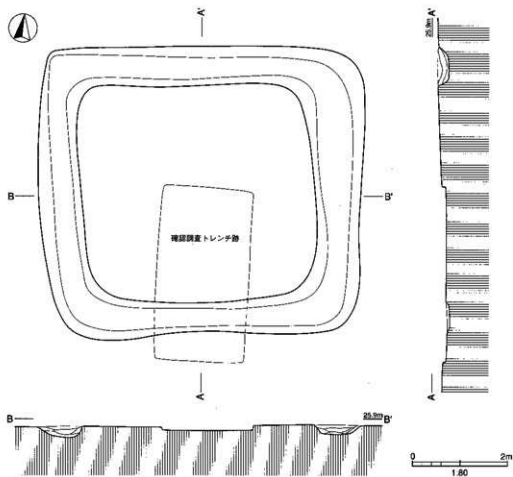
第60图 A065



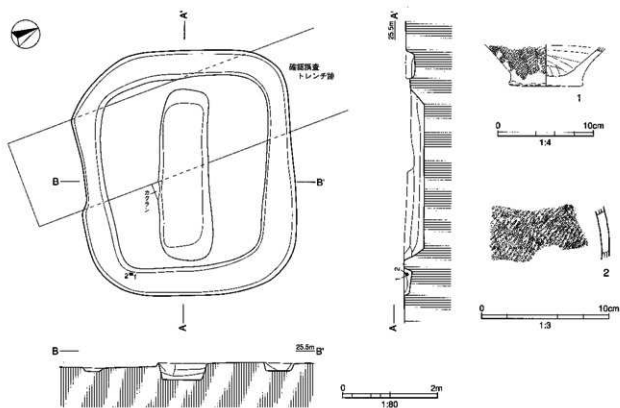
第61图 A066



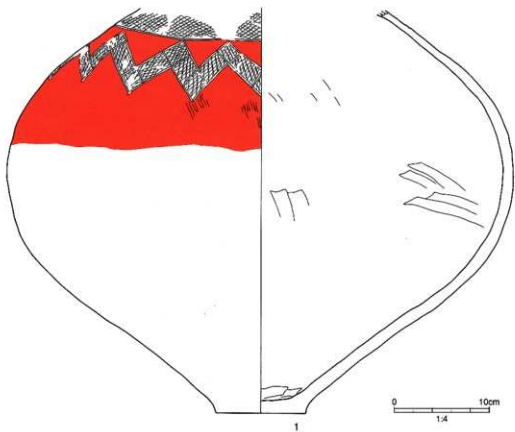
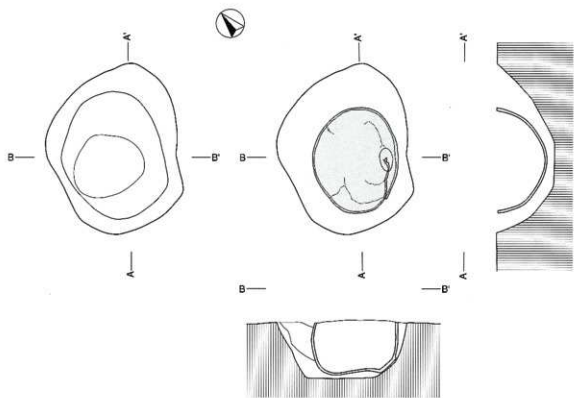
第62图 A067



第63図 C001



第64図 C002



第65圖 D009

## 第4節 古墳時代

古墳時代の遺構は、住居跡13軒、土坑2基が検出された。1地区の北側の区域に遺構分布のまとまりが認められる。

第9表 古墳時代住居跡一覽

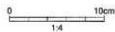
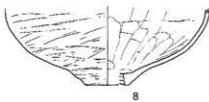
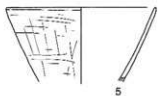
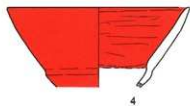
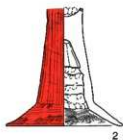
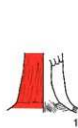
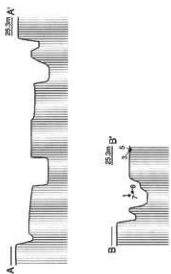
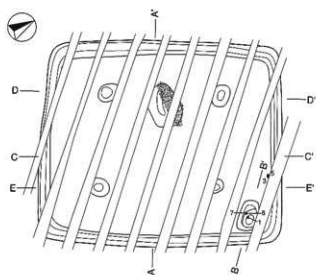
(単位:m)

遺構番号	位置	主軸方位	規模(主軸×横軸)	壁高	基
A004	17-96	N-60°-W	4.4×5.1	0.3	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。覆土中～下層より焼土検出。				
A006	17-66・67	N-43°-W	4.8×5.3	0.3	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A007	17-75・76	N-51°-W	5.4×6.3	0.2～0.35	2基
	トレンチャーによるカクランを受ける。				
A010	17-93・94、18-3・4	N-69°-W	4.8×4.7	0.4	1基
床直上より焼土検出。					
A011	18-37	N-45°-W	3.65×3.65	0.25	—
	炉は検出されなかった。				
A012	18-35	N-10°-W	3.3～3.85×3.15～3.4	0.35	1基
A014	18-16・26	N-62°-W	6.7×6.65	0.45	1基
	床直上より焼土検出。				
A017	18-18	N-56°-W	<2.8>×3.1	0.25	1基
	E002に切られる。覆土中層より焼土検出。				
A019	18-14・15	N-69°-W	5.0×5.6	0.3	1基
	床直上より焼土検出。住居間のピットより粘土検出。				
A031	18-18・19	N-31°-E	4.5×4.5	0.35	1基
床直上より焼土検出。					
A033	17-99	N-61°-W	4.25×4.3	0.35	1基
	トレンチャーによるカクランを受ける。E002に切られる。				
A068	18-45	N-78°-W	4.05×4.85	0.5	1基
	E001に切られる。覆土下層より粘土検出。				
A069	18-34・44	N-80°-W	3.4×3.5	0.3	1基
	E001に切られる。				

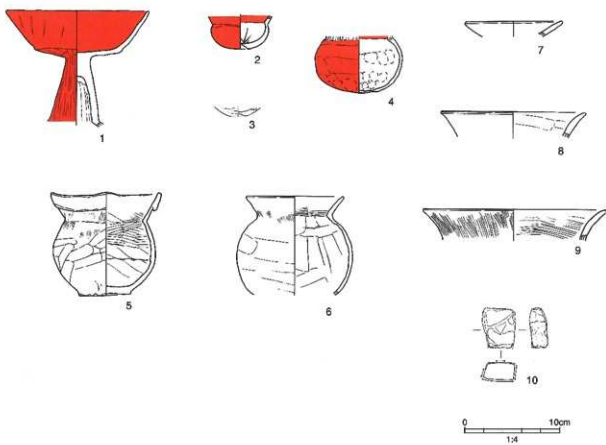
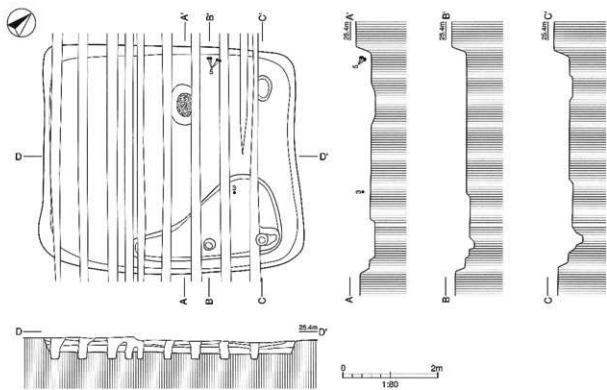
第10表 古墳時代土坑一覽

(単位:m)

遺構番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
D006	18-25	—	1.2×0.8	0.2	
D011	17-100	—	1.7×1.25	0.25	

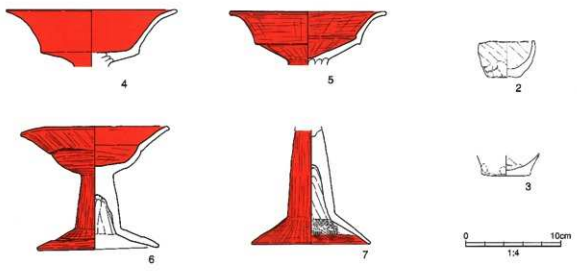
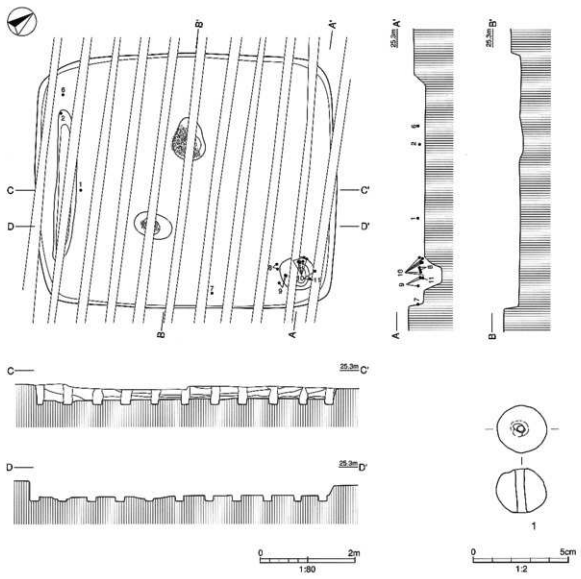


第66图 A004

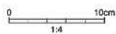
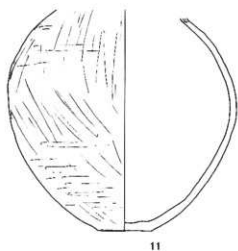
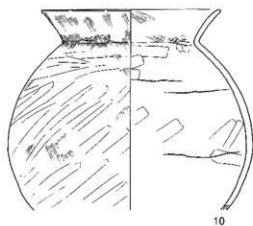
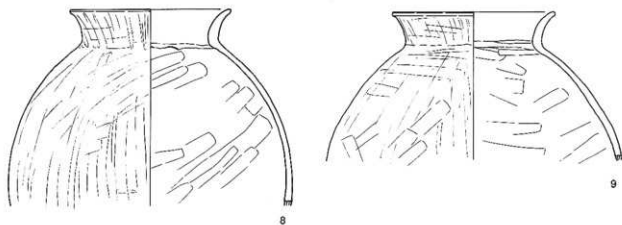


第67图 A006

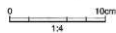
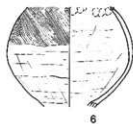
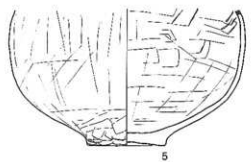
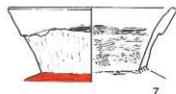
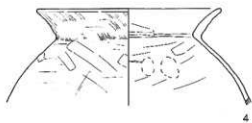




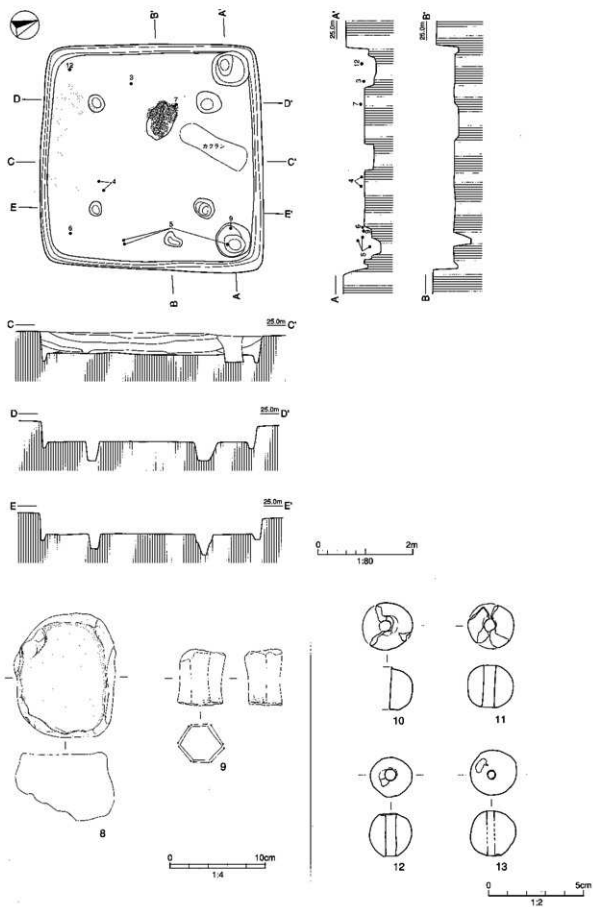
第68图 A007(1)



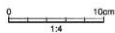
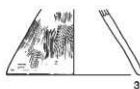
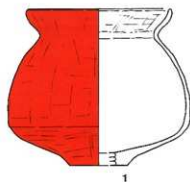
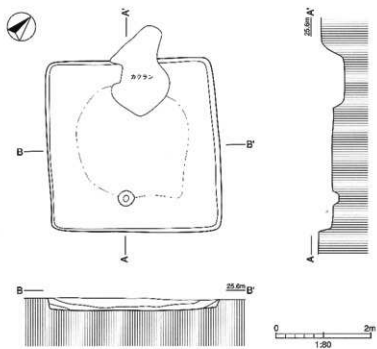
第69圖 A007(2)



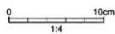
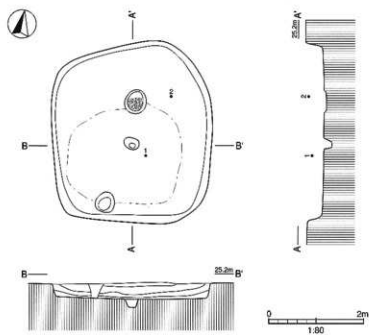
第70圖 A010(1)



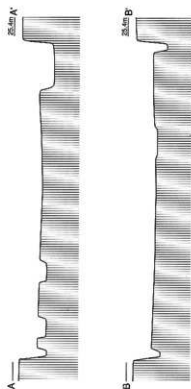
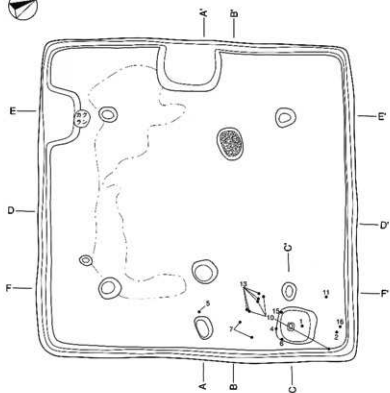
第71图 A010(2)



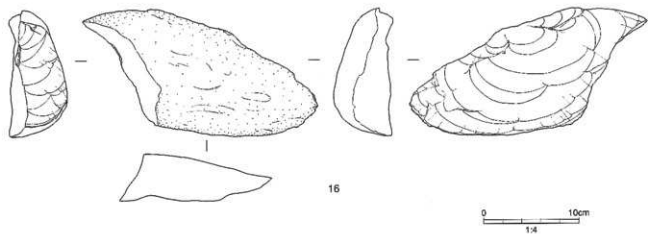
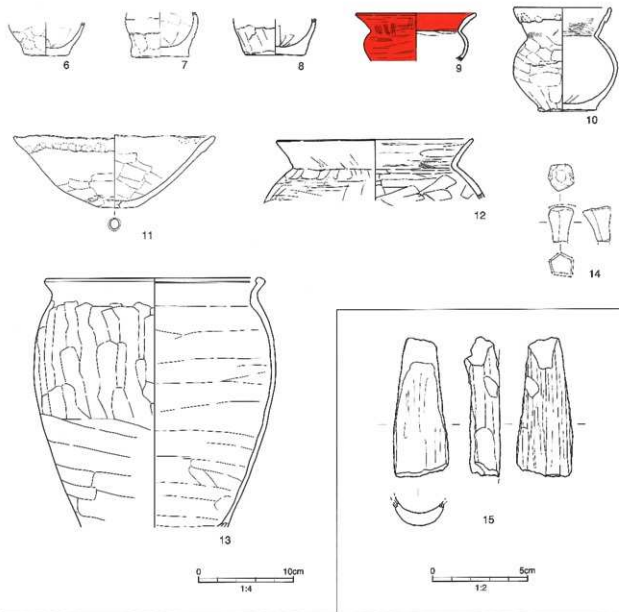
第72図 A011



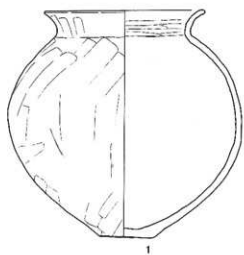
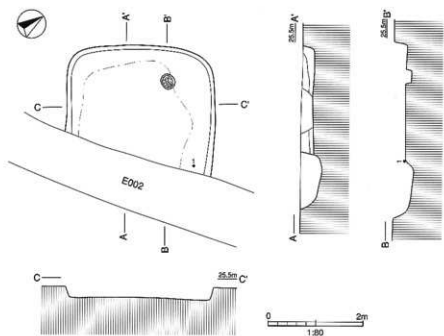
第73図 A012



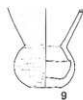
第74图 A014(1)



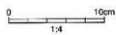
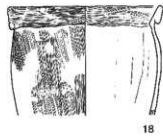
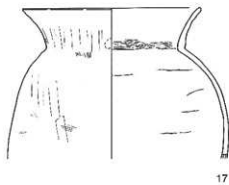
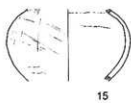
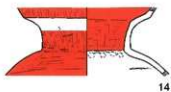
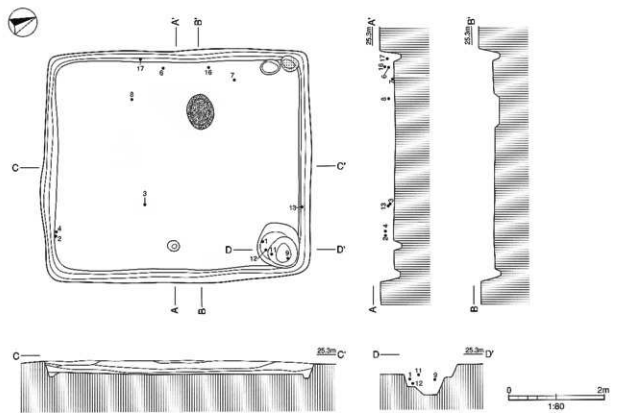
第75图 A014(2)



第76网 A017

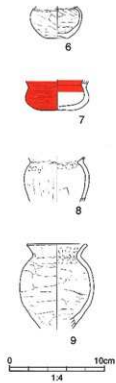
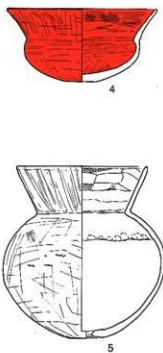
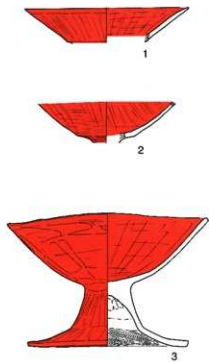
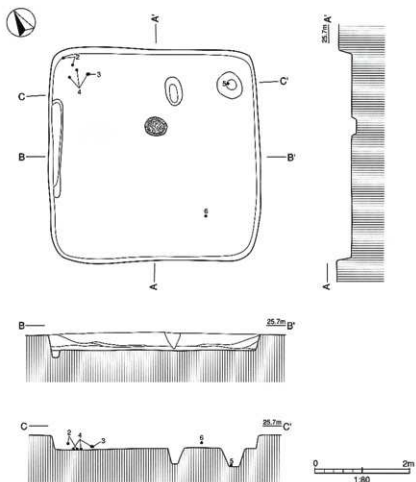


第77网 A019(1)

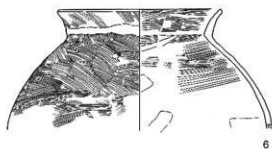
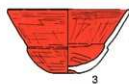
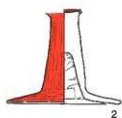
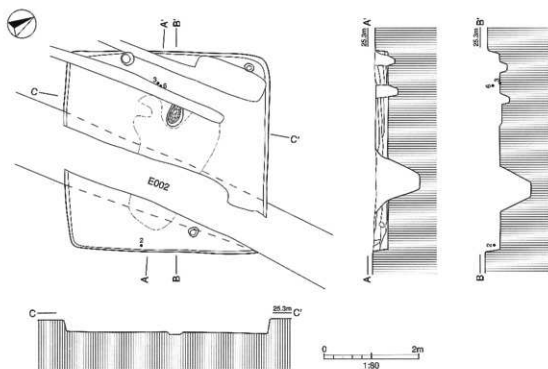


第78图 A019(2)

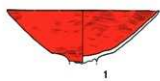
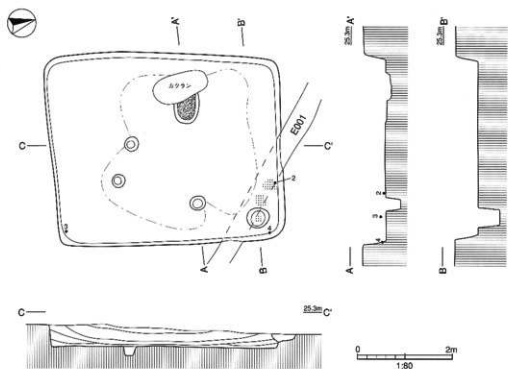




第79号 A031



第80图 A033



1



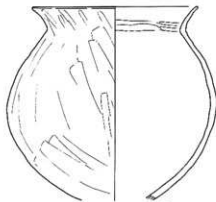
3



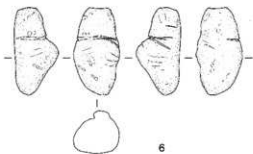
2



4



5



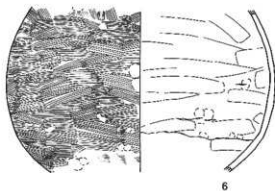
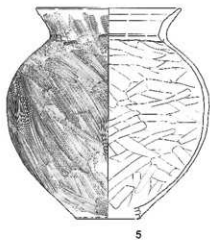
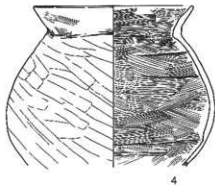
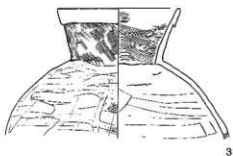
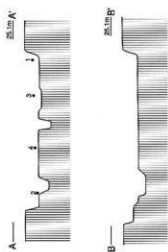
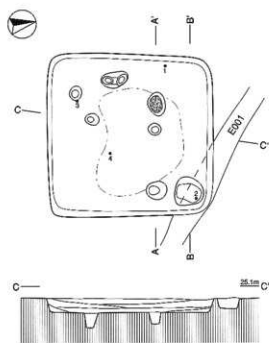
6



7



第81図 A068



第82图 A069



第83图 D006



第84图 D011



## 第5節 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、住居跡25軒、掘立柱建物跡5棟、土坑14基が検出された。黒書土器や緑刺土器などの文字資料の出土が多い。

第11表 奈良・平安時代住居跡一覧

(単位:m)

遺構番号	位置	主軸方位	規模(主軸×横軸)	取高	カマド
A021a	B-14・24	N-21°-E	(2.35~3.1)×(2.75~3.0)	0.25	北西壁中央
	緩斜面に立地。A021bの覆土中より検出されたため、ほとんどの部分を掘りすぎでしまった。プランはセクション及び床面より判断。カマドは検出できなかったが、覆土の状況から判断すると北西壁中央にあった可能性が高い。黒刺土器1点・ヘラ書土器1点出土。				
A021b	B-24	N-1°-W	3.8×3.8	0.45	北壁中央、北東壁隅(新旧関係不明)
	緩斜面に立地。A022を切る。覆土中にA021aあり。黒書土器3点出土。				
A023	B-23	N-85°-W	2.8~3.2×3.0	0.1~0.4	西壁中央
	緩斜面に立地。A022・D002を切る。床直上より焼土検出。				
A024	J8-13	N-28°-W	3.8×3.85	0.5	北西壁中央
	F002を切る。D008に切られる。黒書土器6点出土。				
A025	J7-83	N-22°-E	3.75×3.55	0.5	北壁中央
	拡張住居の可能性あり。黒書土器4点・朱書土器1点出土。				
A026	J7-82・92	N-13°-W	3.85×3.8	0.7	北壁中央
	黒書土器3点・緑刺土器1点出土。				
A027	J8-1・11・12	N-22°-W	3.8×3.6	0.6	北壁中央
	黒書土器4点出土。				
A030	B-10	N-33°-W	3.1×3.1	0.4	北西壁中央
	黒書土器3点・ヘラ書土器1点出土。				
A034	I7-90	N-19°-W	3.15×3.05	0.6	北壁中央
	床直上より焼土検出。黒書土器1点出土。				
A035	I7-89	N-10°-W	3.5×3.6	0.4	北壁中央
	トレンチャーによるカクランを受ける。黒書土器1点出土。				
A036	J7-72	N-51°-E	3.8×3.95	0.45	北東壁中央
	紀年銘黒書土器(835年)出土。他黒書土器3点出土。				
A037	J7-62	N-23°-E	3.0×3.2	0.45	北東壁中央(新) 北西壁中央(旧)
	黒書土器2点・朱書土器1点出土。				
A039	J8-33・43・44	N-20°-W	3.4×3.5	0.5	北壁中央
	B001に切られる。黒書土器4点・朱書土器1点・ヘラ書土器1点出土。				
A040	J8-22	N-6°-W	3.8×3.8	0.8	北壁中央
	黒書土器6点・緑刺土器2点・ヘラ書土器2点出土。				
A041	J8-21・22	N-23°-E	3.9×3.75	0.2	北東壁中央
A044	B-40・50	N-71°-W	(4.7)×(4.9)	0.4	(北西壁北寄り)
	A045を切る。A045の調査中に覆土より検出されたため、ほとんどの部分を掘りすぎでしまった。プランは残存部及びセクションより判断。カマドは検出できなかったが、覆土の状況及び支脚の出土位置から判断すると北西壁北寄りであった可能性が高い。				
A049	B-30	N-92°-E	3.65×4.0	0.6	東壁中央(新) 北壁中央(旧)
	A048を切る。黒書土器3点出土。				
A050		N-18°-W	3.45×3.55	0.6	北壁中央
	黒書土器2点出土。				
A058	J8-41	N-18°-W	3.1×2.9	0.45~0.5	北壁中央
	D026を切る。				

A059	J8-41	N-7°-E	3.6×3.25~3.55	0.3~0.4	北壁面寄り
A063	J8-48	N-15°-W	2.7×2.5	0.25	北東壁隅
	墨書上部2点出土。				
A070	J8-36・46	N-125°-E	3.4×3.45	0.1~0.25	南東壁中央
	縦斜面に立地。D031と重複(新旧関係不明)。				
A071	J8-25	N-43°-W	3.3×3.25	0.5	北西壁中央
A072a	J8-35	N-65°-E	3.6×4.2	0.1	北東壁中央
	A072bと重複。A072bの礎で替え住居と思われる。床面中央より炉の火床のような赤色の被熱痕を検出。墨書上部1点出土。				
A072b	J8-35	N-65°-E	2.8×2.52~2.8	0.3	北東壁中央
	A072aの床下より検出。A072aに建て替え前の住居と思われる。				

第12表 奈良・平安時代堀立柱建物跡 概

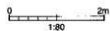
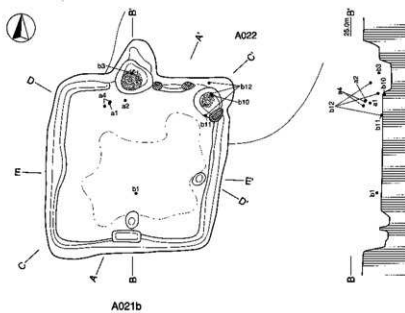
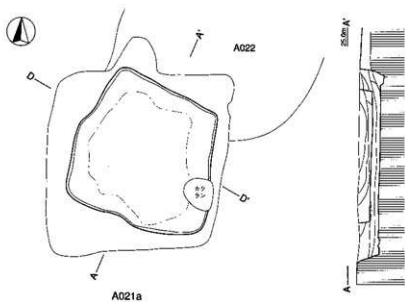
(単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	柱間(間)	梁行	桁行	深さ
B001	J8-33・34・43・44	N-28°-W	2×3	3.65~3.9	4.8~4.9	0.2~0.7
	A039を切る。					
B002	J8-24・25	N-38°-W	2×3	3.1	4.2~4.4	0.25~0.55
	B003に切られる。					
B003	J8-24	N-55°-E	2×2	3.1~3.2	4.1~4.6	0.2~0.6
	B002を切る。					
B004	J8-23	N-60°-E	2×2	3.25	3.65~3.8	0.1~0.5
B005	J8-42	N-3°-W	2×3	3.9	4.75~5.1	0.4~0.5
	F015・A066を切る。南西隅に浅いピットを1基伴う。墨書上部1点出土。					

第13表 奈良・平安時代土坑一覽

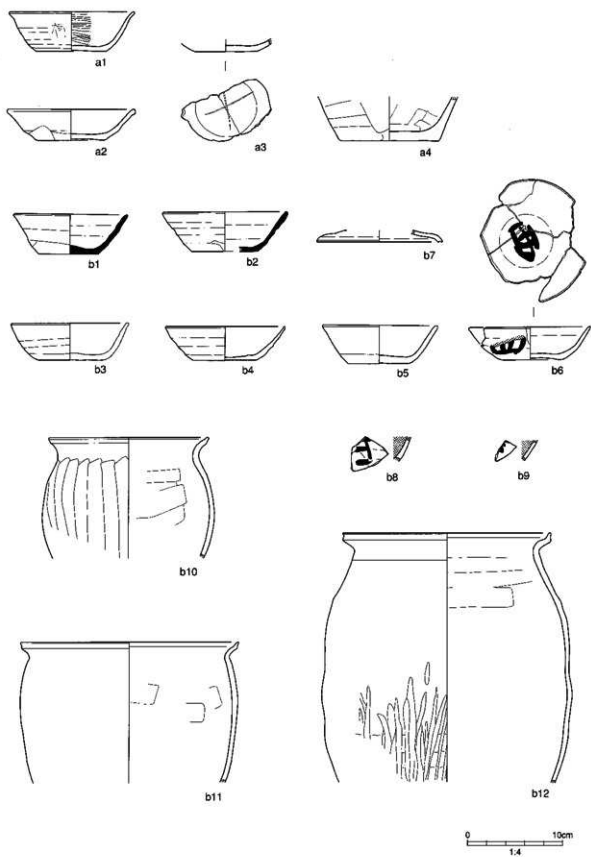
(単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
D002	J8-23	—	1.1×0.95	<0.6>	A023に切られる。
D003	J8-24	—	1.1×0.95	0.25	墨書七器1点出土。
D007	J8-7	—	1.0×<0.8>	0.2	トレンチャーによるカクランを受ける。
D008	J8-13・14	—	0.95×0.75	0.9	A024を切る。
D012	J7-100	—	0.7×0.7	0.2	
D025	J8-41	—	1.2×0.9	0.35	裡上へト層にかけて厚く焼土が堆積。ヘラ書上部1点出土。F018を切る。
D027	J8-90	—	2.2×1.1	0.2	
D031	J8-46	—	0.9×0.85	<0.3>	A070と重複(新旧関係不明)。
D033	J8-38	—	1.1×1.05	0.3~0.4	縦斜面に立地。
D034	J8-38	—	1.1×1.05	0.2~0.25	縦斜面に立地。
D035	J8-36	—	1.0×0.9	0.2	
D036	J8-36	—	1.0×1.0	0.25	
D037	J8-37	—	1.1×1.1	0.3	
D039	J8-37	—	1.35×1.35	0.55~0.65	縦斜面に立地。

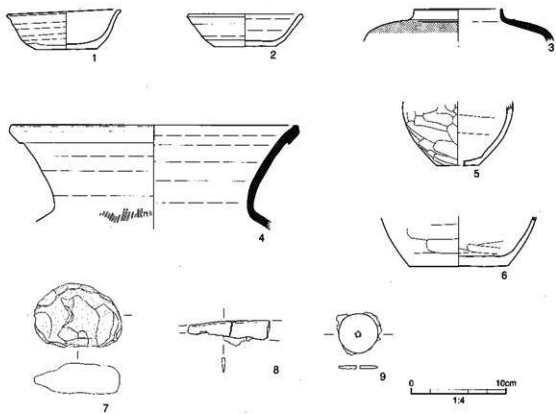
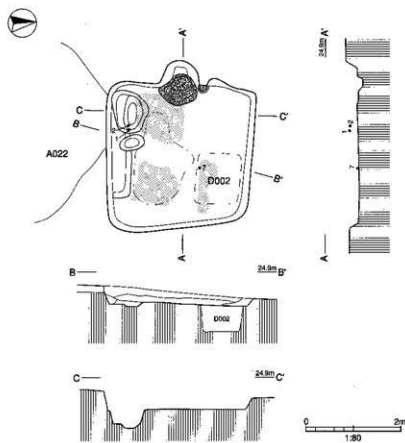


第85図 A021a・b(1)

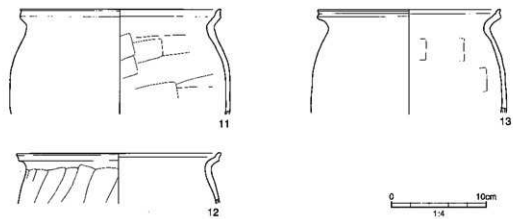
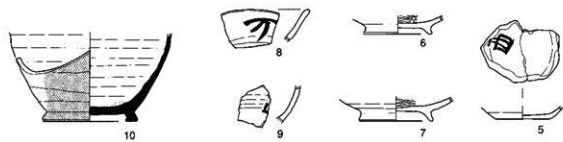
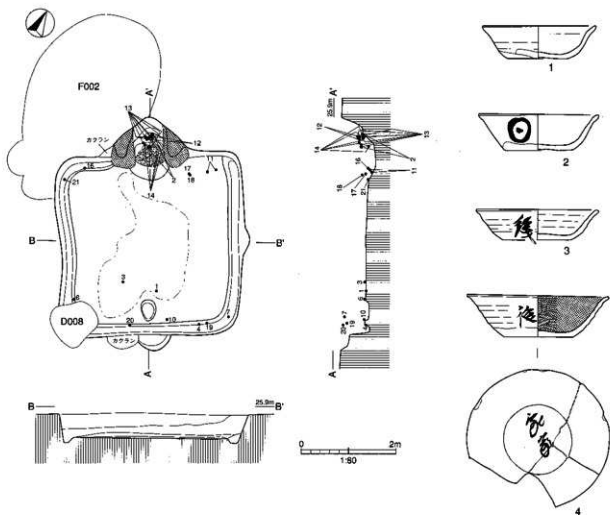




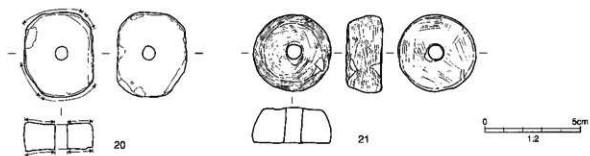
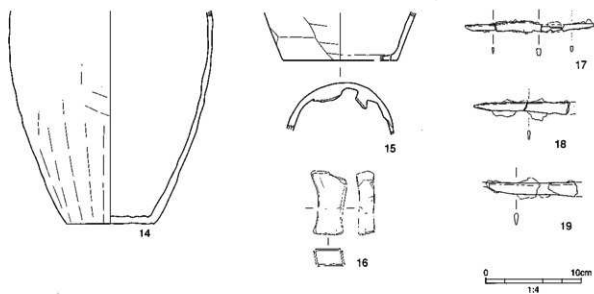
第86图 A021a·b(2)



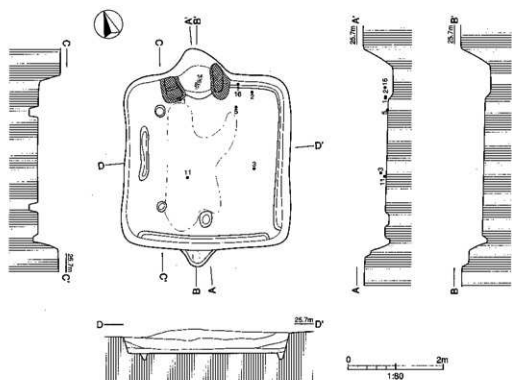
第87图 A023



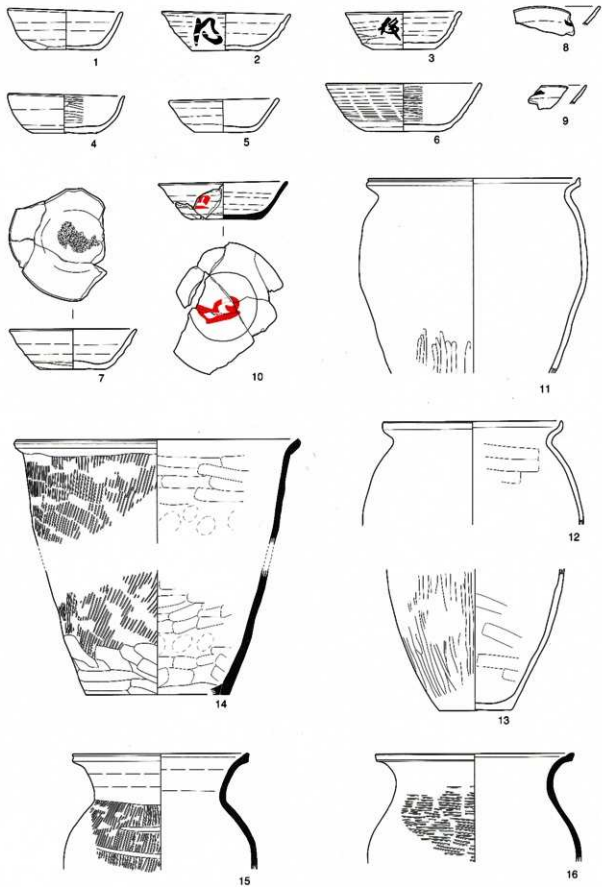
第88河 A024(1)



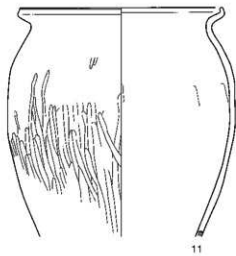
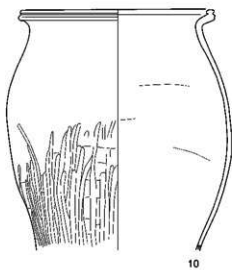
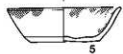
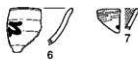
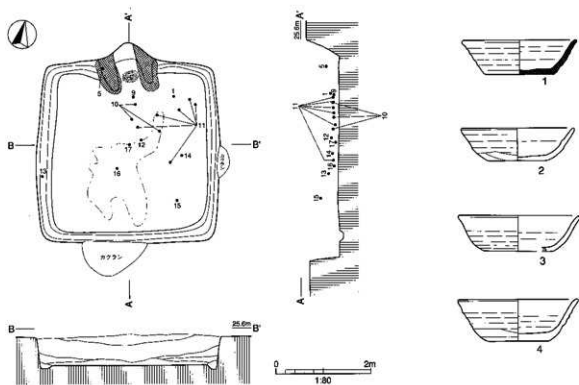
第89图 A024(2)



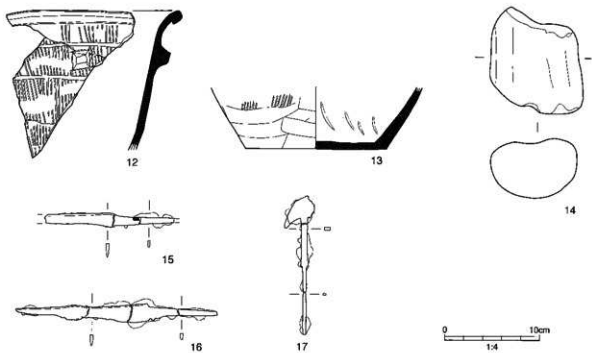
第90图 A025(1)



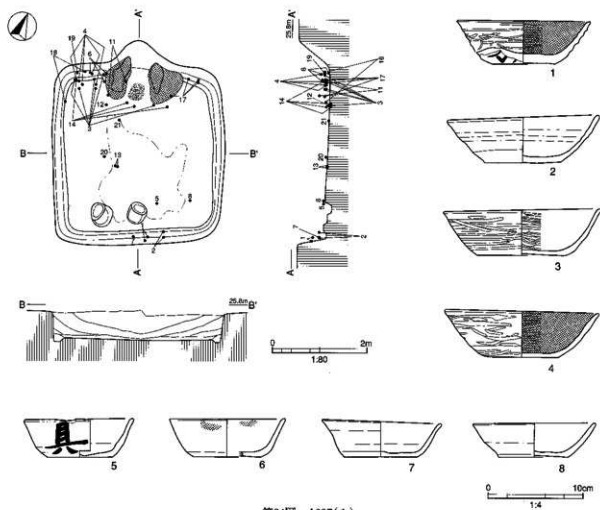
第91图 A025(2)



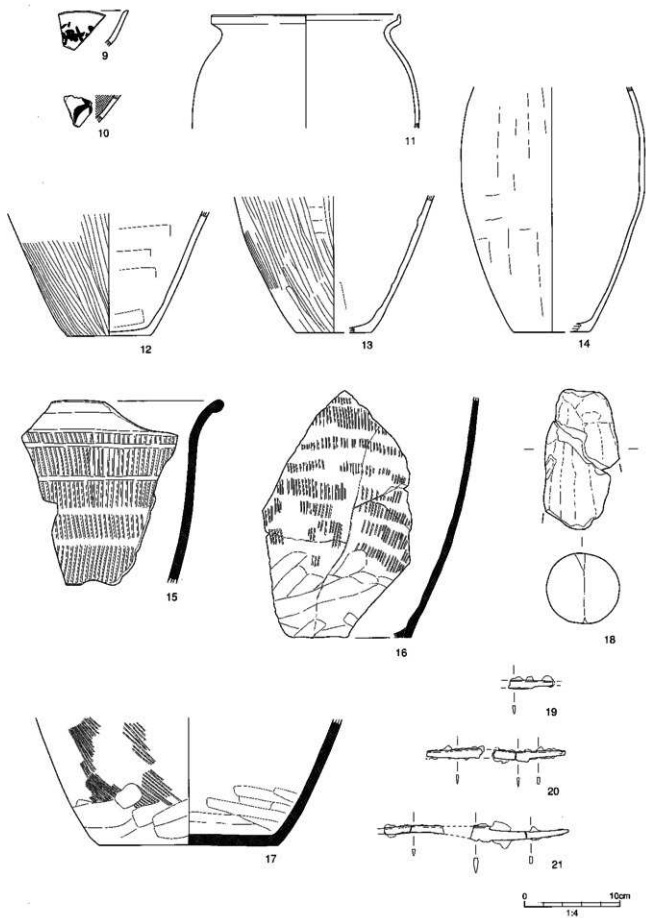
第92图 A026(1)



第93图 A026(2)

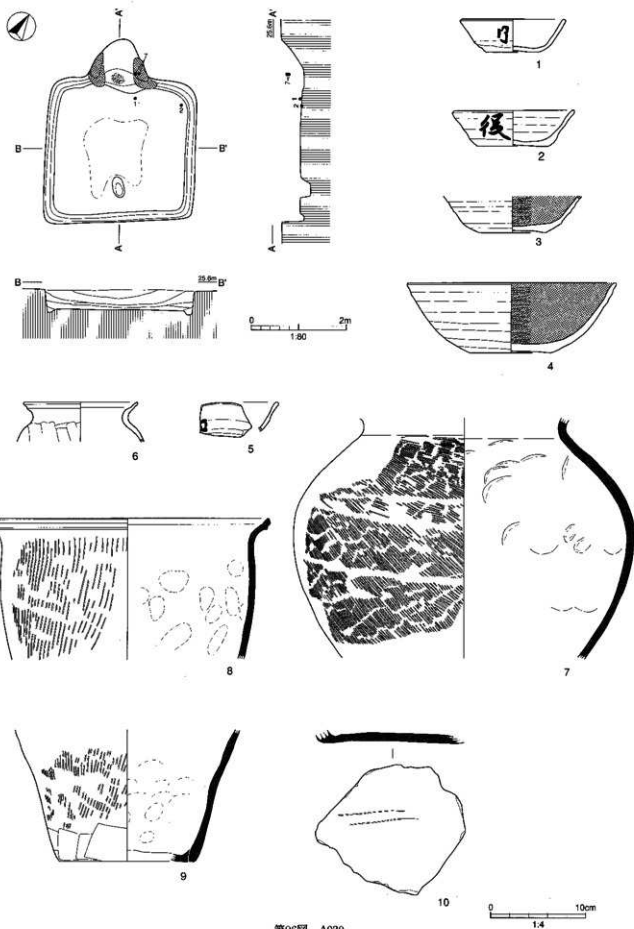


第94图 A027(1)

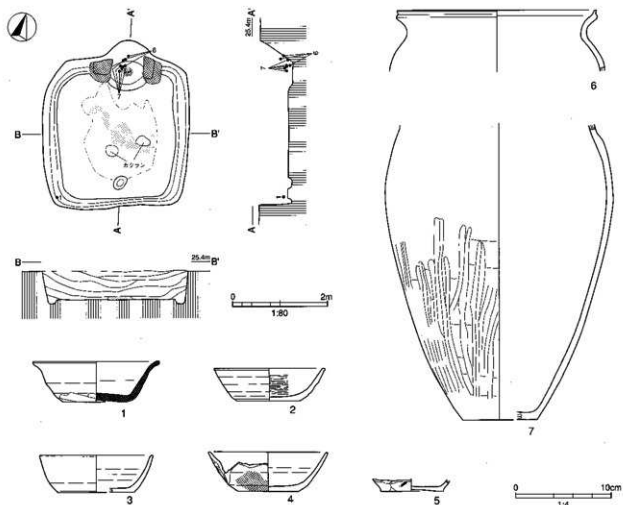


第96图 A027(2)

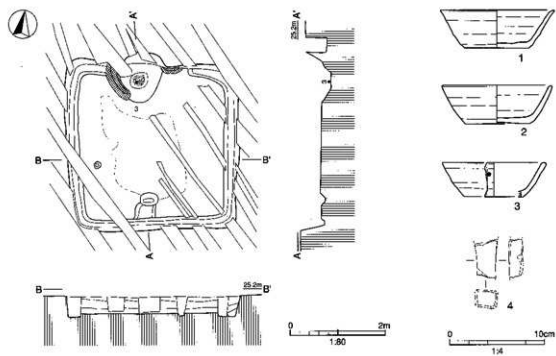




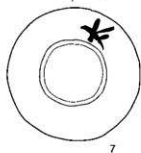
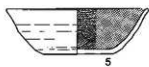
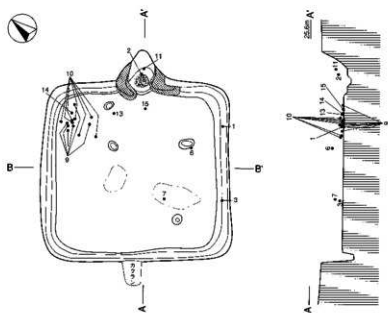
第96图 A030



第97回 A034



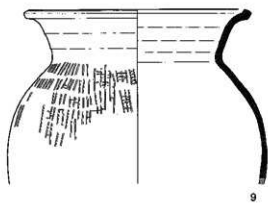
第98回 A035



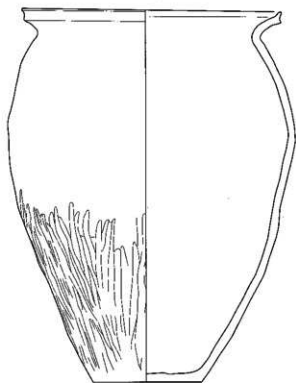
野  
立  
家  
三  
層  
不  
長  
池



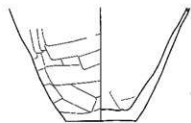
第99图 A036(1)



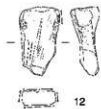
9



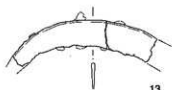
10



11



12



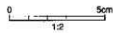
13



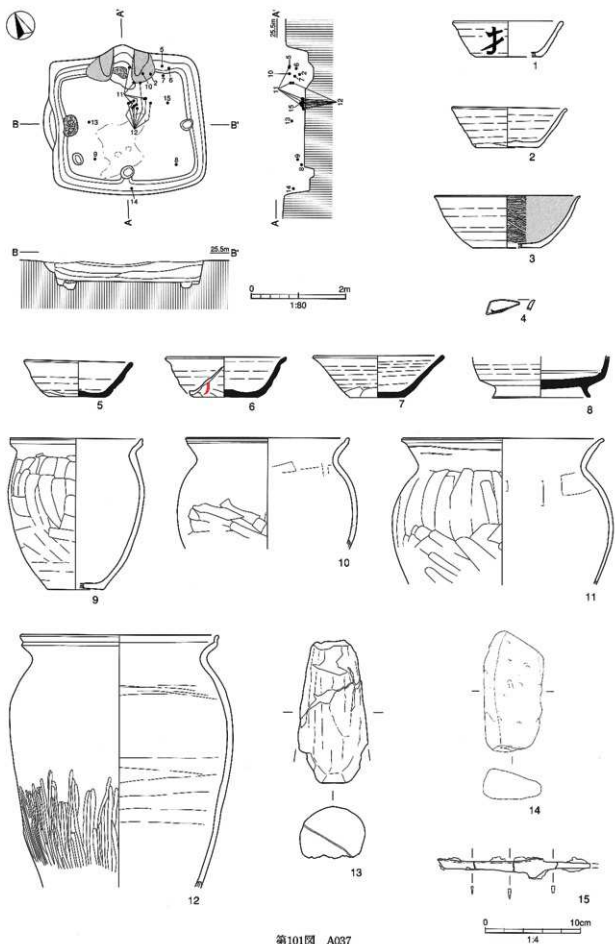
14



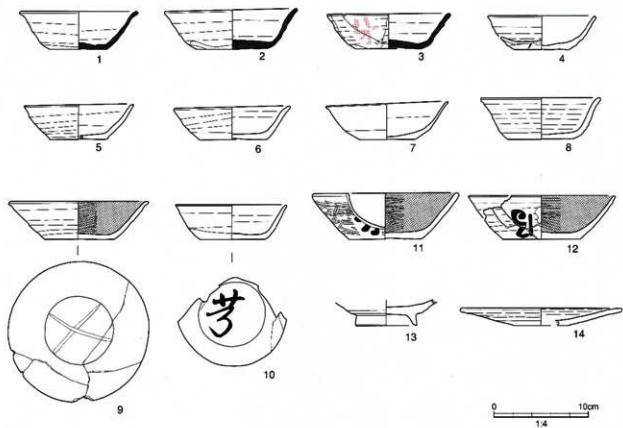
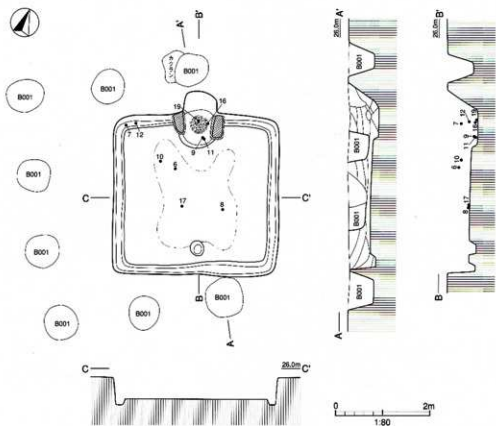
15



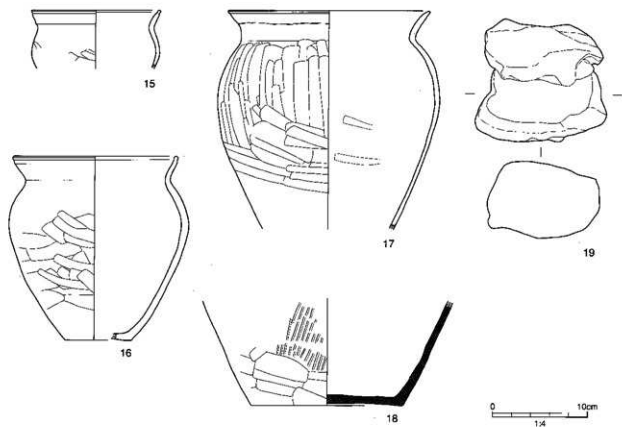
第100图 A036(2)



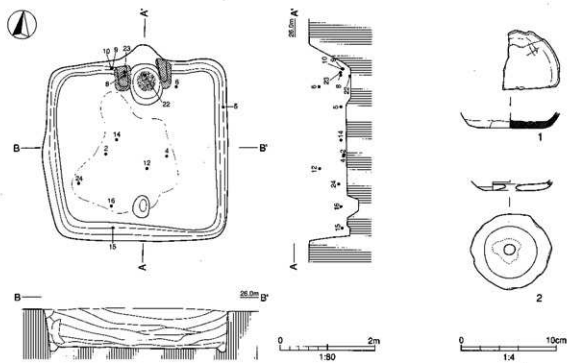
第101圖 A037



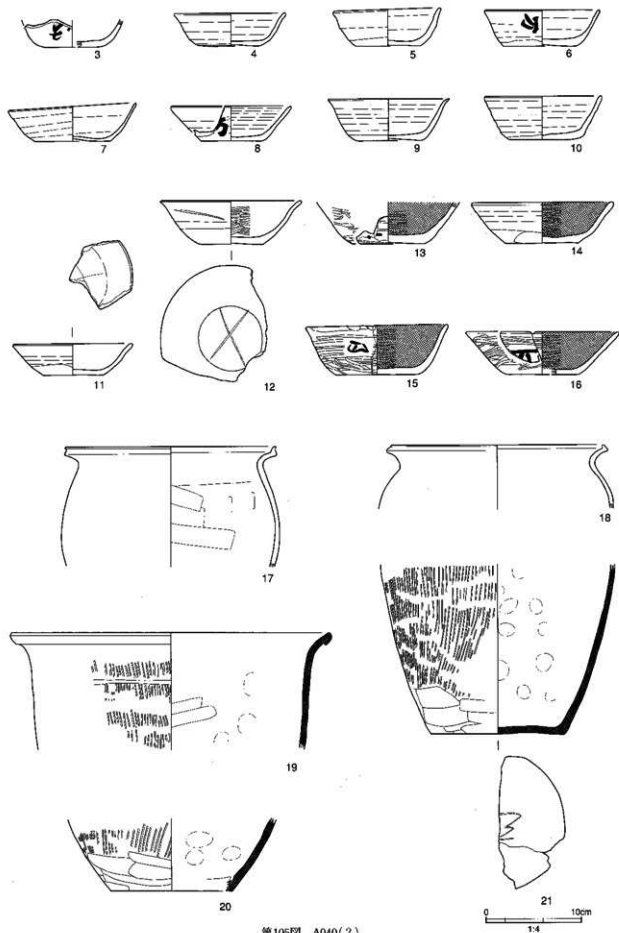
第102图 A039(1)



第103图 A039(2)

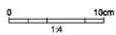
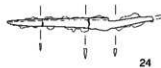
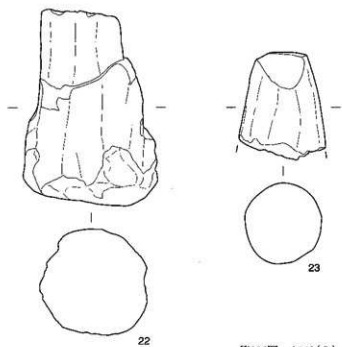


第104图 A040(1)

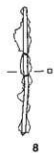
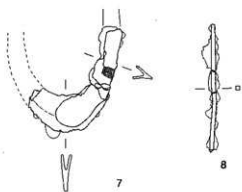
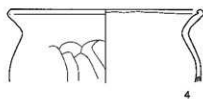
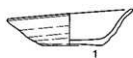
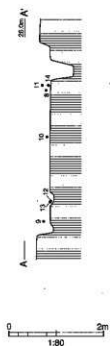
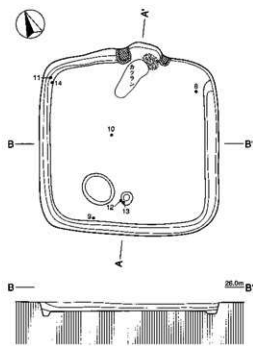


第105图 A040(2)

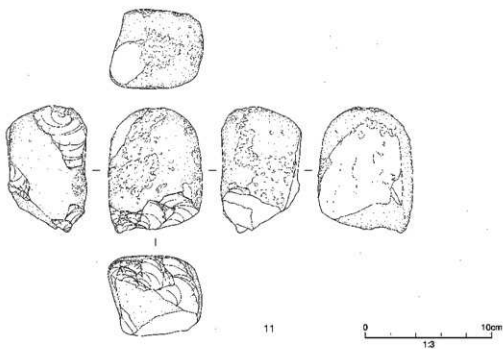




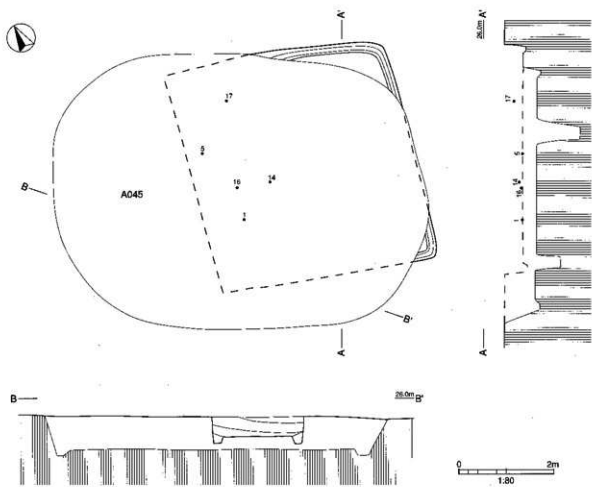
第106图 A040(3)



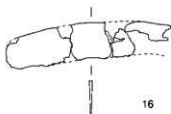
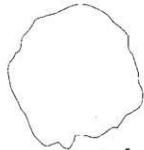
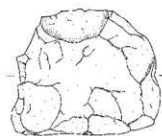
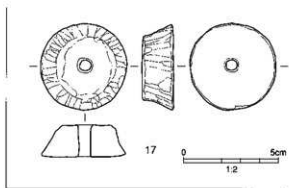
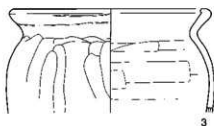
第107图 A041(1)



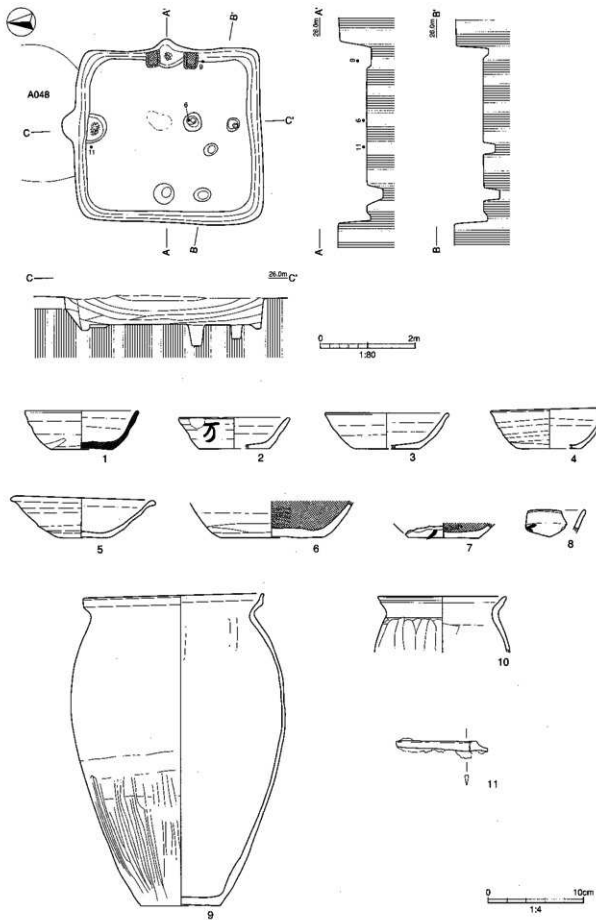
第108图 A041(2)



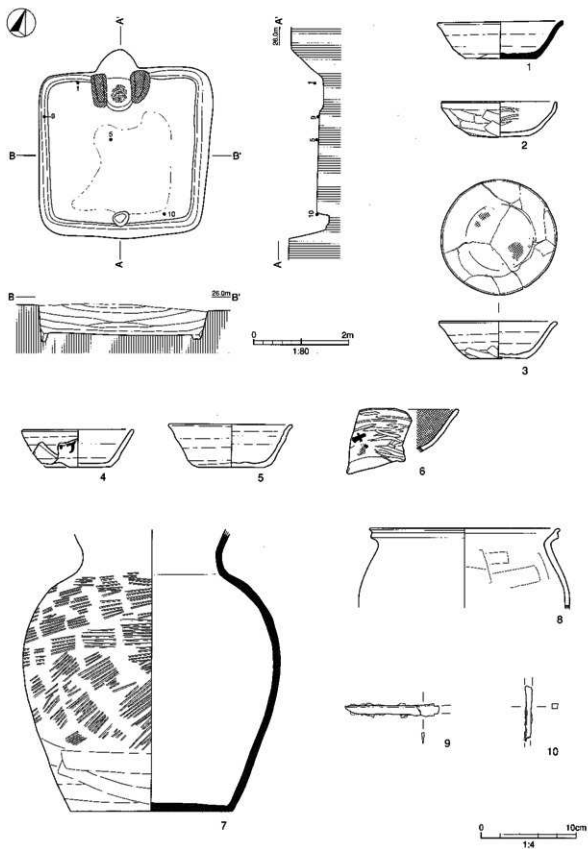
第109图 A044(1)



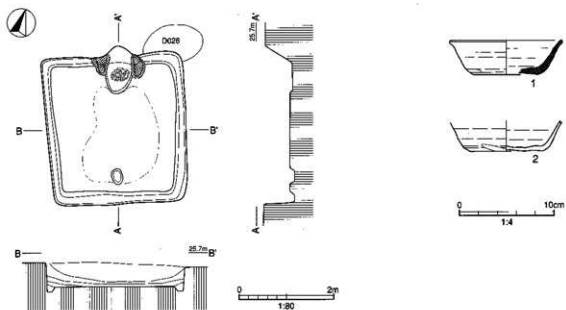
第110图 A044(2)



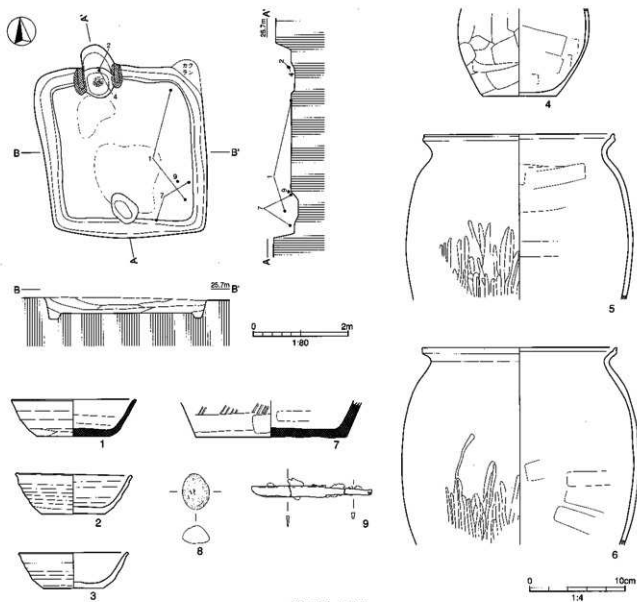
第111图 A049



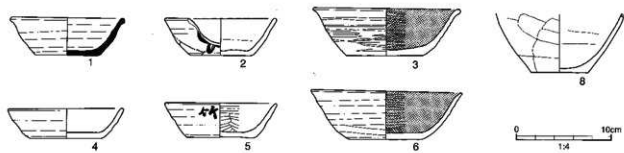
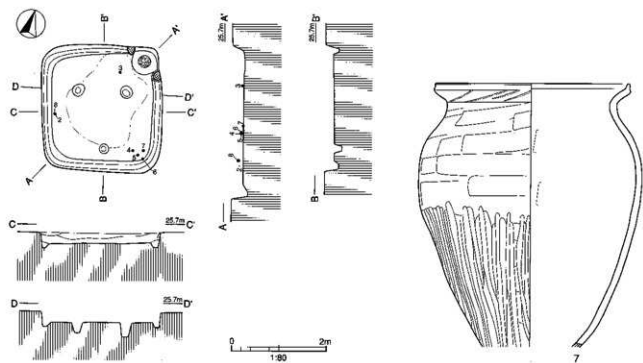
第112网 A050



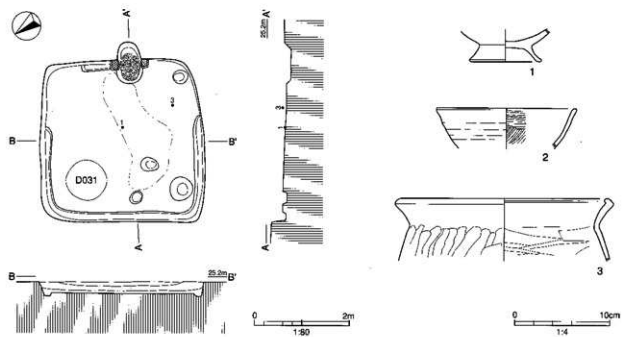
第113图 A058



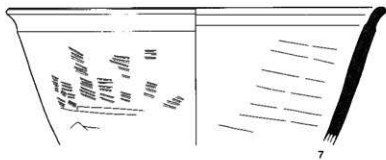
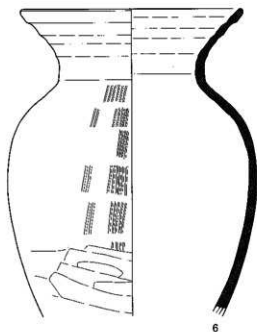
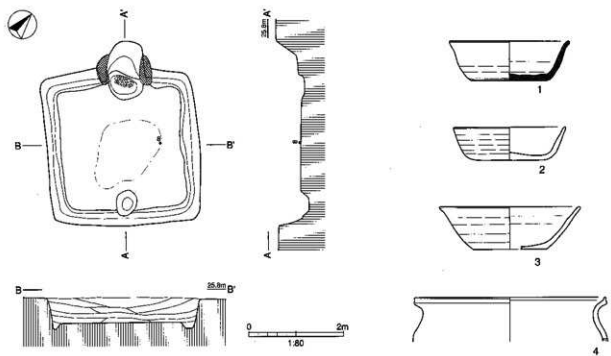
第114图 A069



第115图 A063

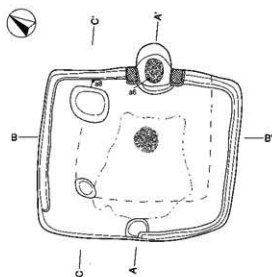


第116图 A070

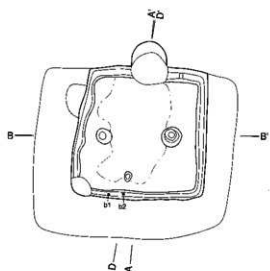
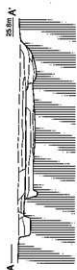


第117号 A071

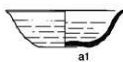




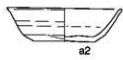
A072a



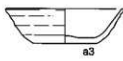
A072b



a1



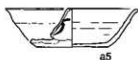
a2



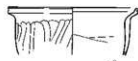
a3



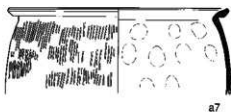
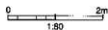
a4



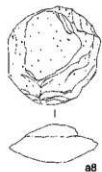
a5



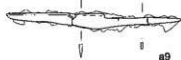
a6



a7



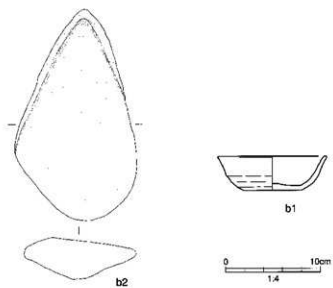
a8



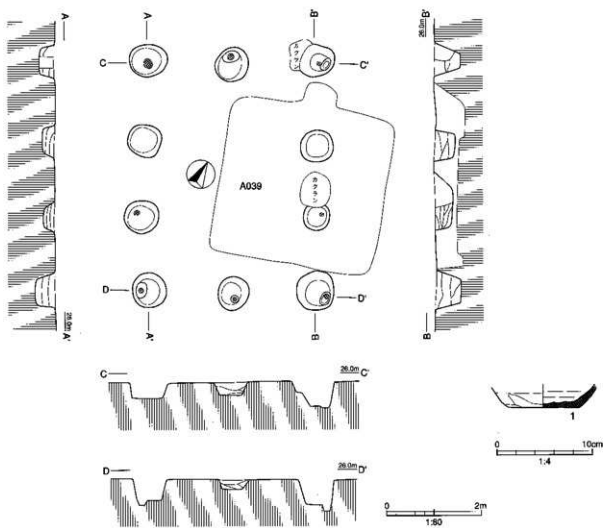
a9



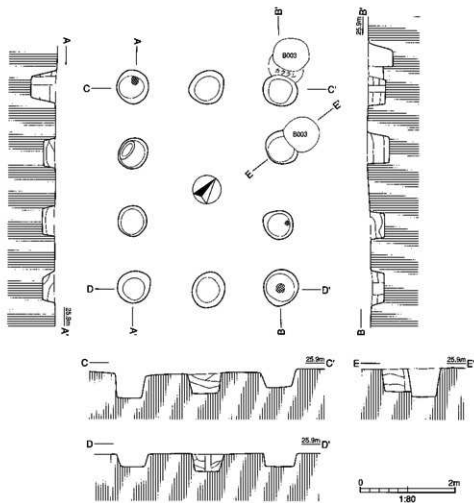
第118图 A072a·b(1)



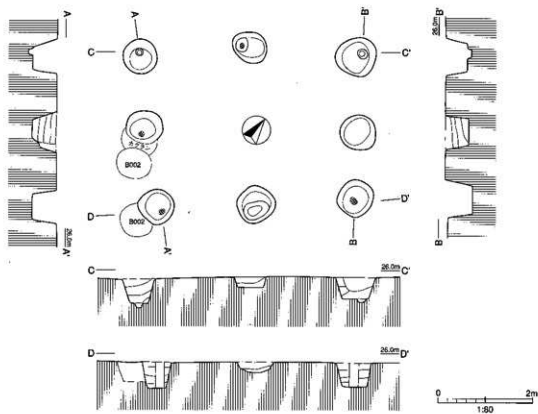
第119图 A072a·b(2)



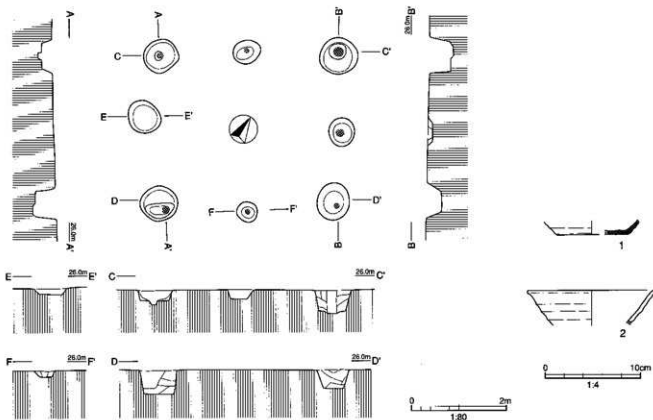
第120图 B001



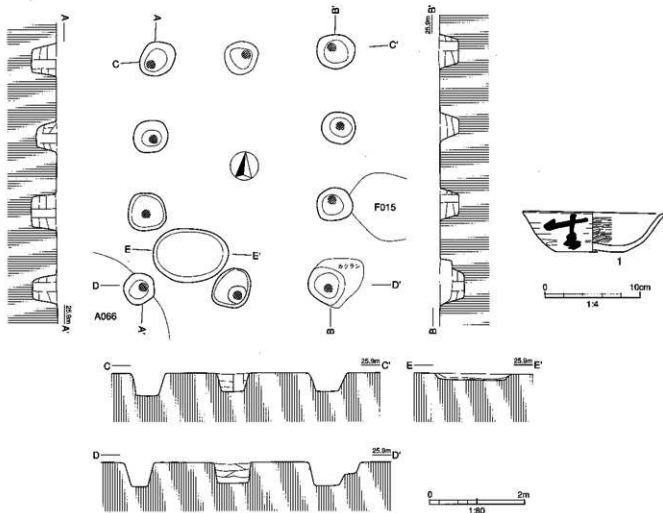
第121图 B002



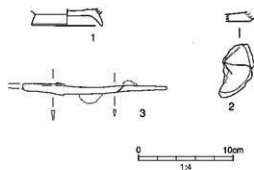
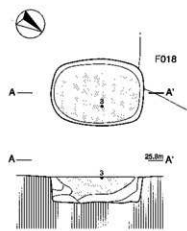
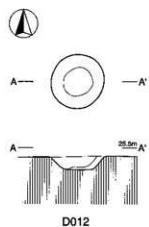
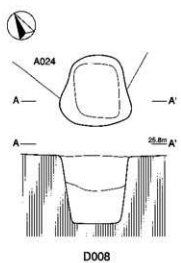
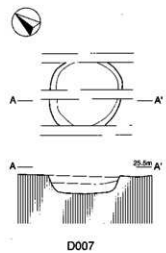
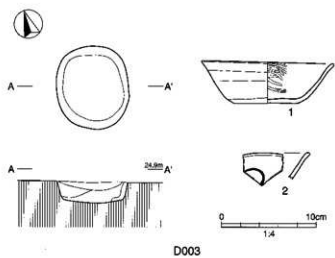
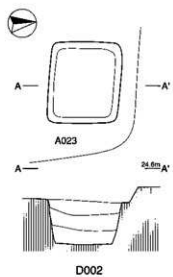
第122图 B003



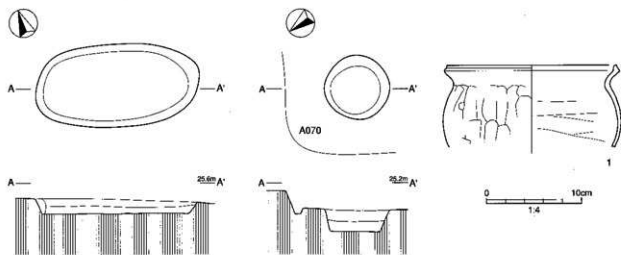
第123网 B004



第124网 B005

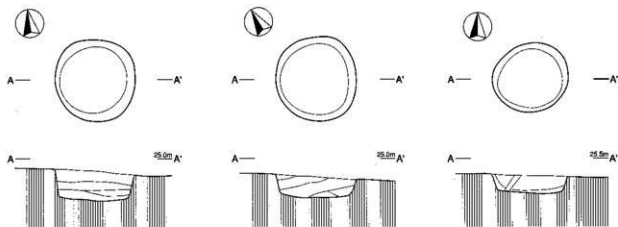


第125网 D002 · D003 · D007 · D008 · D012 · D025



D027

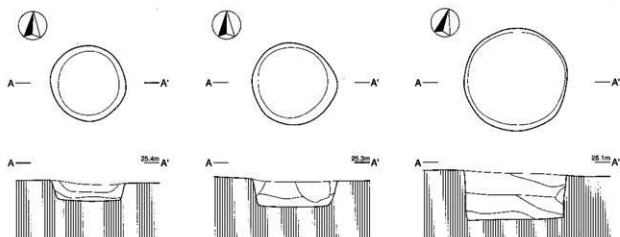
D031



D033

D034

D035



D036

D037

D039



第126图 D027 · D031 · D033 · D034 · D035 · D036 · D037 · D039

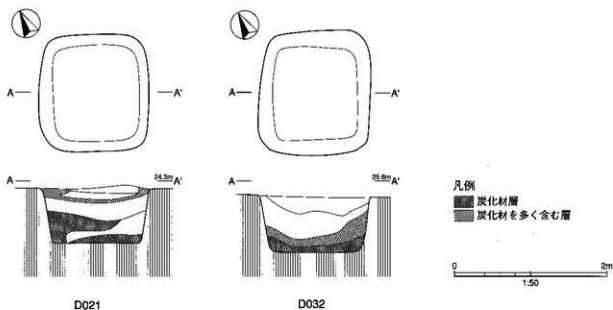
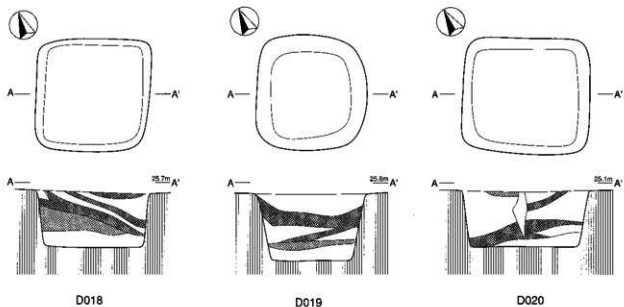
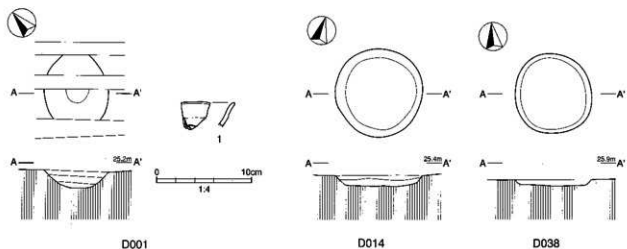
## 第6節 中近世以降

中近世以降の遺構は、土坑8基、溝2条が検出された。土坑は8基のうち5基が炭焼窯と思われる遺構である。溝は2条検出されているが、いずれも畑地の根切り溝である。地主の話によると、明治の終わり頃に最初に掘られ、以後近年まで、何度も掘り返して利用されたとのことである。E001は全長30m、幅0.25～0.7m、深さ0.05～0.2mである。E002は全長172m、幅0.4～1.5m、深さ0.15～1.0mで、畑地の境界に沿って延びており、中程で直角に曲がっている。

第14表 中近世以降土坑一覧

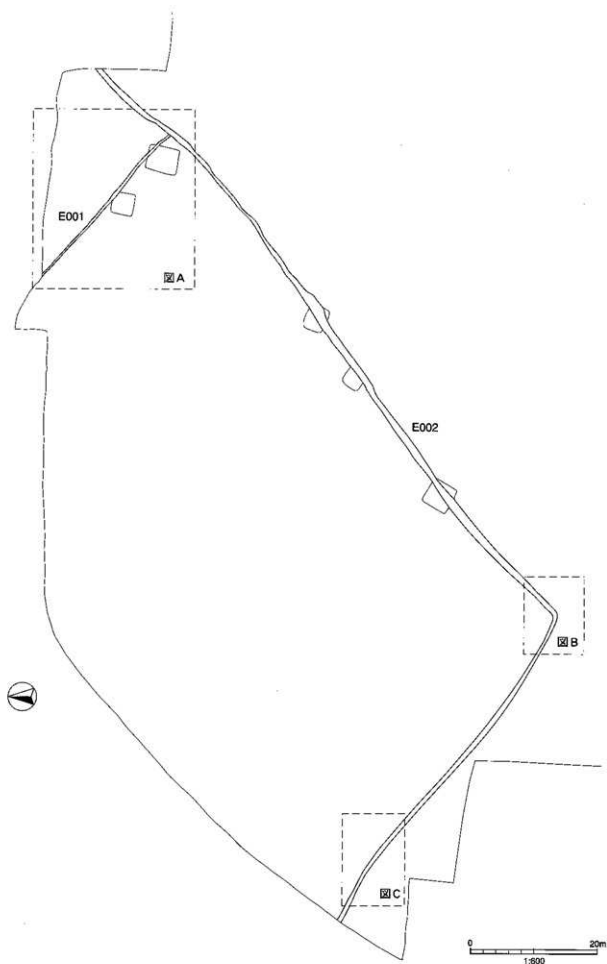
(単位m)

遺構番号	位置	主軸方位	長軸×短軸	深さ	備考
D001	17-88	—	<0.85>×0.85	0.2	トレンチャーによるカクランを受ける。墨書土器1点出土。
D014	17-60	—	1.15×1.15	0.15	
D018	18-54	N-22°-E	1.5×1.5	0.7	炭焼窯。
D019	18-62	N-26°-E	1.55×1.45	0.9	炭焼窯。
D020	18-88	N-30°-E	1.65×1.5	0.75	炭焼窯。
D021	19-7	N-27°-E	1.55×1.45	0.75	炭焼窯。
D032	18-45	N-28°-E	1.65×1.45	0.75	炭焼窯。
D038	18-5	—	1.1×1.0	0.1	

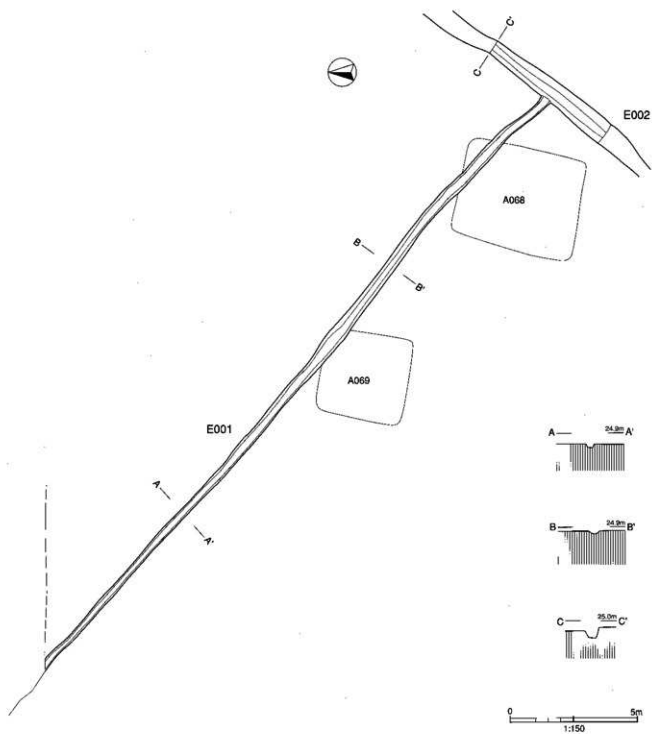


第127回 D001・D014・D018・D019・D020・D021・D032・D038





第128図 E001・E002(1)



図A

第129図 E001・E002(2)

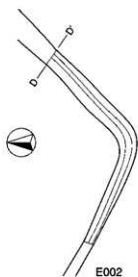


圖 B

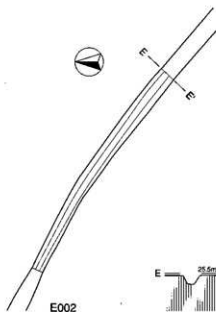
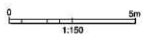


圖 C



第130圖 E001 · E002(3)

### 第3章 小 結

上谷遺跡の報告書は調査区を5つの地区に分割し、各分冊ごとに1つの地区、全5分冊での報告を予定している。本書で報告した地区はI地区である。上谷遺跡のまとめについては最終冊にて行う予定なので、ここではI地区の出土文字資料について簡単に触れて小結とした。

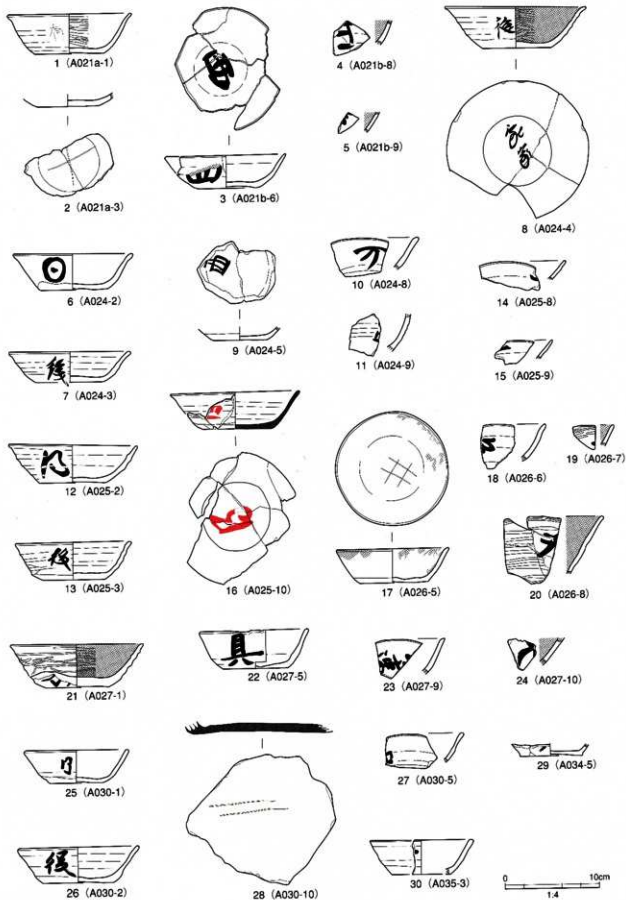
上谷遺跡から検出された遺構・遺物のうち、これまでの大きな成果の一つとして、奈良・平安時代の遺構から出土する墨書・朱書・線刻・ヘラ書などの多数の文字資料があげられる。千葉県は奈良・平安時代の文字資料の出土が全国的に見ても多い県であるが、中でも一つの遺跡単位から出土した資料として、上谷遺跡は県内でも有数の遺跡である。I地区において、遺構から出土した文字が書かれている土器或いは土器片は総数65点を数える。内訳は、墨書のみ52点、朱書のみ3点、線刻のみ4点、ヘラ書のみ6点で、一つの土器或いは土器片に種別を異にして書かれているものはなかった。上谷遺跡において奈良・平安時代の遺構が主体をなすのはI地区よりも南の区域であり、遺構外出土の資料も含めて、出土文字資料は今後整理・報告過程において膨大な数になることが予想される。

本書においては諸処の事情により、第2章に遺物の観察表が掲載できなかった。最後にI地区の出土文字資料の集成を行い、一覧表を掲載したので参照していただきたい。

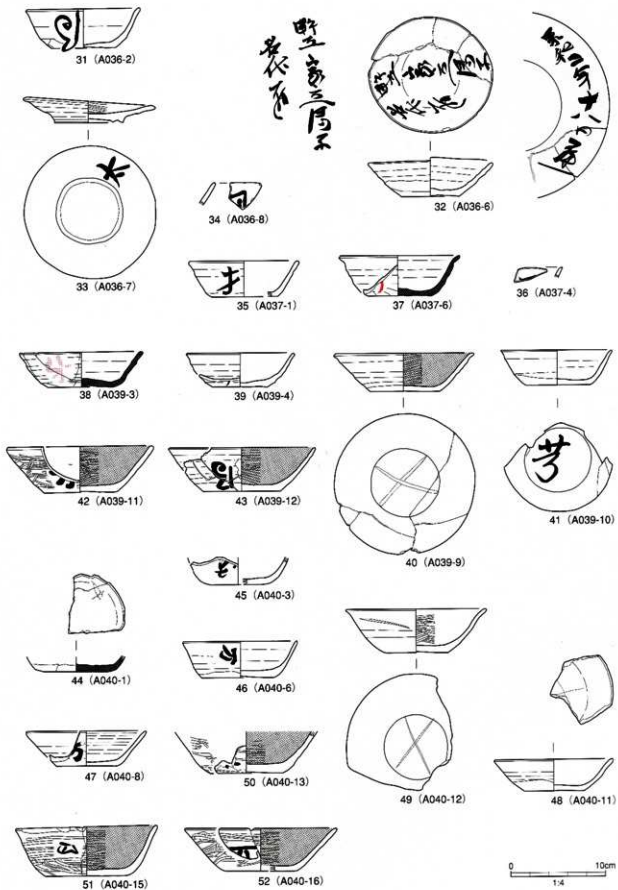
第15表 上谷遺跡I地区出土文字資料一覧

No	積文	種別	器種	部位	方向	遺構・遺物番号	備考
1	有	線刻	土師器 坏	体部外面	正位	A021a-1	
2	×	ヘラ書	土師器 坏	底部外面	—	A021a-3	
3	西 西	墨書 墨書	土師器 坏	体部外面 底部内面	正位 —	A021b-6	
4	□	墨書	土師器 坏	体部外面	横位	A021b-8	
5	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A021b-9	
6	日	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A024-2	
7	後	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A024-3	
8	後 家 家	墨書 墨書	土師器 坏	体部外面 底部外面	正位 —	A024-4	
9	西	墨書	土師器 坏	底部内面	—	A024-5	
10	万	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A024-8	
11	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A024-9	
12	得	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A025-2	
13	後	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A025-3	
14	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A025-8	
15	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A025-9	
16	得 得	朱書 朱書	須恵器 坏	体部外面 底部外面	横位 —	A025-10	
17	二	線刻	土師器 坏	底部内面	—	A026-5	灯明具
18	得	墨書	土師器 坏	体部外面	横位	A026-6	
19	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A026-7	
20	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A026-8	
21	□	墨書	土師器 坏	体部外面	—	A027-1	
22	具	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A027-5	

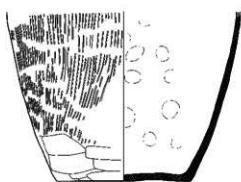
23	函	墨書	土師器 坏	体部外面	横位	A027- 9	
24	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A027-10	
25	得	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A030- 1	
26	俊	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A030- 2	
27	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A030- 5	
28	川	ヘラ書	須恵器 甕	底部外面	—	A030-10	
29	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A034- 5	
30	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A035- 3	
31	得	墨書	土師器 坏	体部外面	倒位	A036- 2	
32	承和二年十八日進 野家立房子名代造	墨書 墨書	土師器 坏	体部外面 内面	横位 —	A036- 6	紀年銘墨書 (835年)
33	太	墨書	土師器 高台付皿	体部外面	横位	A036- 7	
34	□	墨書	土師器 坏	体部内面		A036- 8	
35	才	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A037- 1	
36	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A037- 4	
37	□	朱書	須恵器 坏	体部外面		A037- 6	
38	□	朱書	須恵器 坏	体部外面		A039- 3	
39	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A039- 4	
40	×	ヘラ書	土師器 坏	底部外面	—	A039- 9	
41	卅方	墨書	土師器 坏	底部外面	—	A039-10	
42	□	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A039-11	
43	得	墨書	土師器 坏	体部外面	倒位	A039-12	
44	卅	線刻	須恵器 坏	底部内面	—	A040- 1	
45	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A040- 3	
46	万	墨書	土師器 坏	体部外面	横位	A040- 6	
47	万	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A040- 8	
48	×	線刻	土師器 坏	底部内面	—	A040-11	
49	×	ヘラ書	土師器 坏	底部外面	—	A040-12	
50	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A040-13	
51	得	墨書	土師器 坏	体部外面	横位	A040-15	
52	□	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A040-16	
53	□	ヘラ書	須恵器 甕	底部外面	—	A040-21	
54	万	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A049- 2	
55	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A049- 7	
56	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A049- 8	
57	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A050- 4	
58	□	墨書	土師器 坏	体部外面		A050- 6	
59	卅	墨書	土師器 坏	体部外面	倒位	A063- 2	
60	竹	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A063- 5	
61	卅	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	A072a- 5	
62	生	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	B005- 1	
63	□	墨書	土師器 坏	体部外面		D001- 1	
64	□	墨書	土師器 坏	体部外面	正位	D003- 2	
65	□	ヘラ書	土師器 坏	底部外面	—	D025- 2	



第131圖 出土文字資料(1)



第132组 出土文字资料(2)



53 (A040-21)



54 (A049-2)



55 (A049-7)



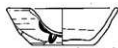
56 (A049-8)



57 (A050-4)



58 (A050-6)



59 (A063-2)



60 (A063-5)



61 (A072a-5)



62 (B005-1)



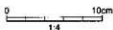
63 (D001-1)



64 (D003-2)



65 (D025-2)



第133图 出土文字资料(3)



# 写 真 图 版



(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連遺跡周辺航空写真 (昭和63年撮影)



上谷遺跡全景 (平成11年3月撮影)



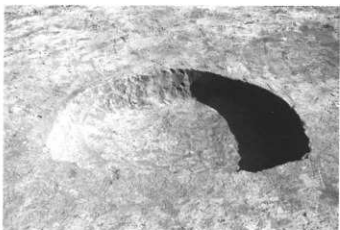
上谷遺跡I地区全景 (平成11年3月撮影)



A038



D004



D005



D010



D013



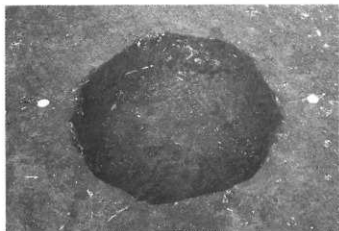
D015



D016



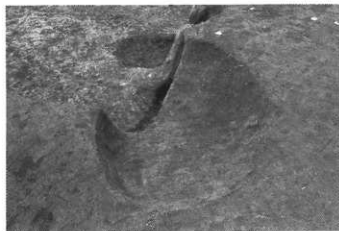
D017



D022



D023 · D024



D026



D028



D029



D030



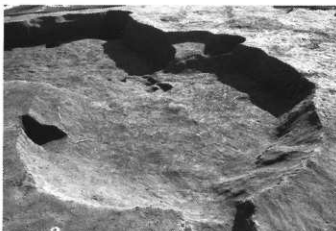
D040



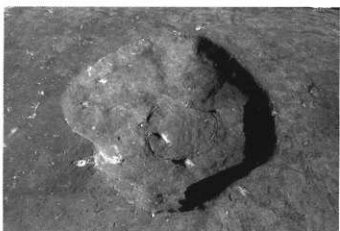
D041



F001



F002



F003



F004



F005



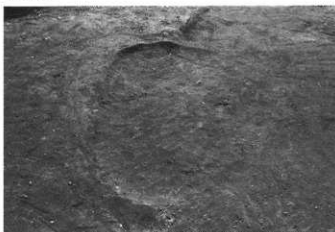
F006



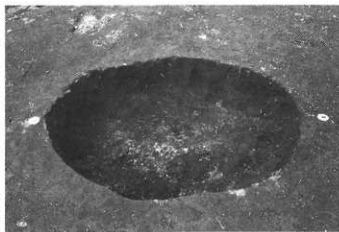
F007



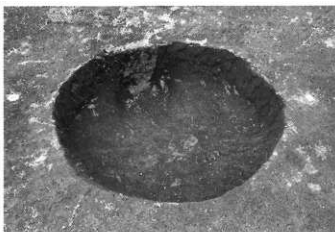
F008



F009



F010



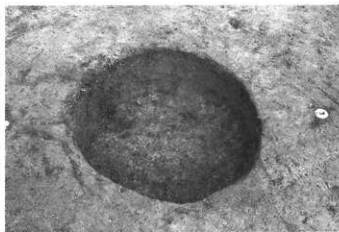
F011



F012



F013



F014



F015



F016



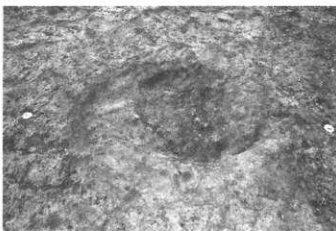
F017 - F018



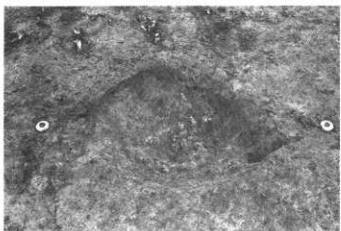
F019



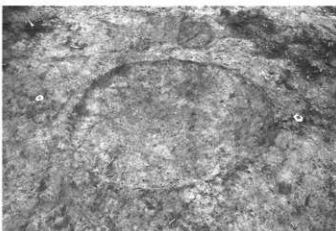
F020



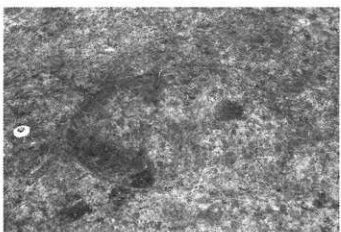
F021



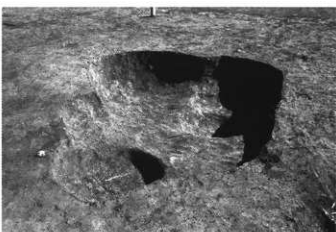
F022



F023



F024



F025





F026



F027



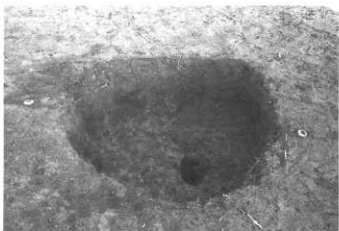
F028



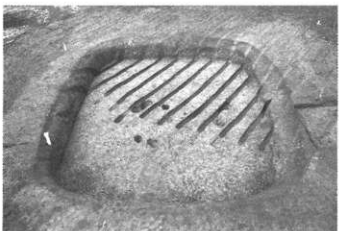
F029



F030



F031



A001



A002



A003



A005



A008



A009



A013



A015



A016



A018